

石立
稽古

置碁自在

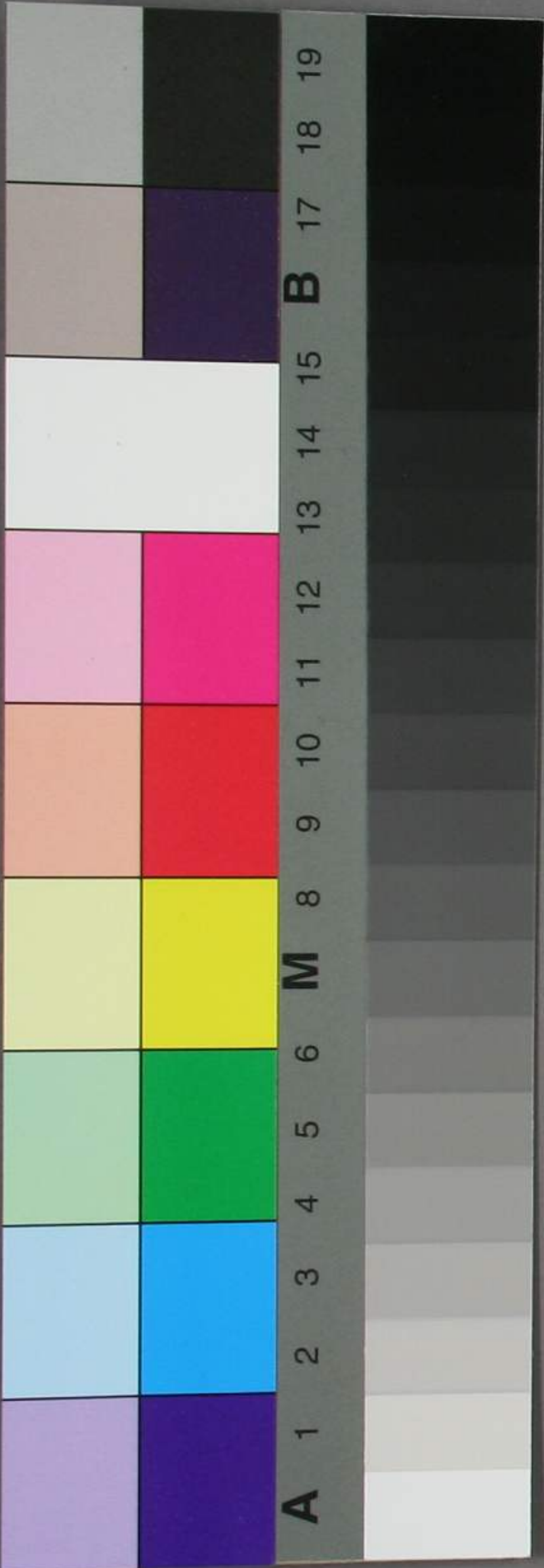
四目之部上

三

79

3704

3



門 9
3704
3

置碁自在

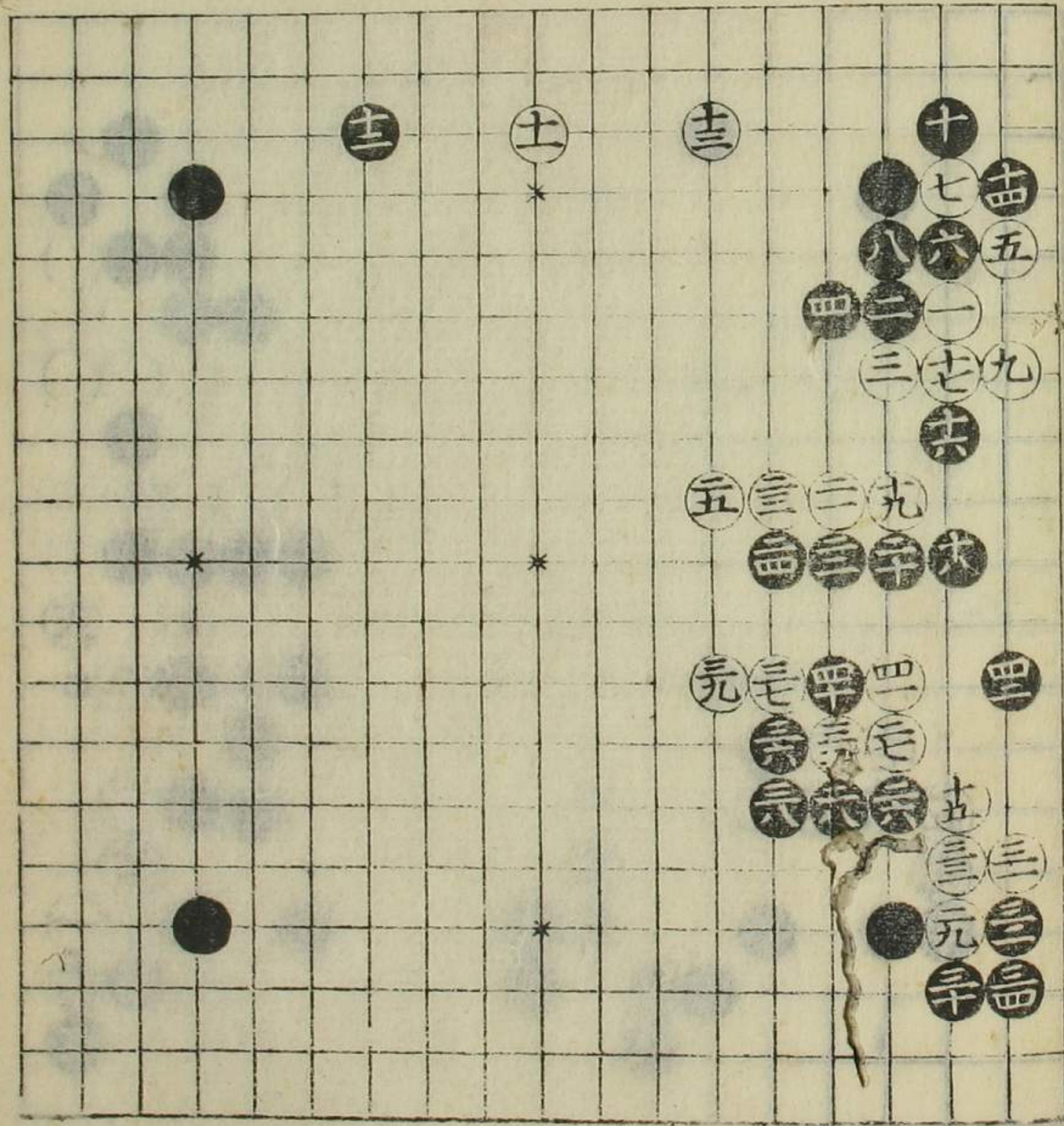
藏書

禧次小記

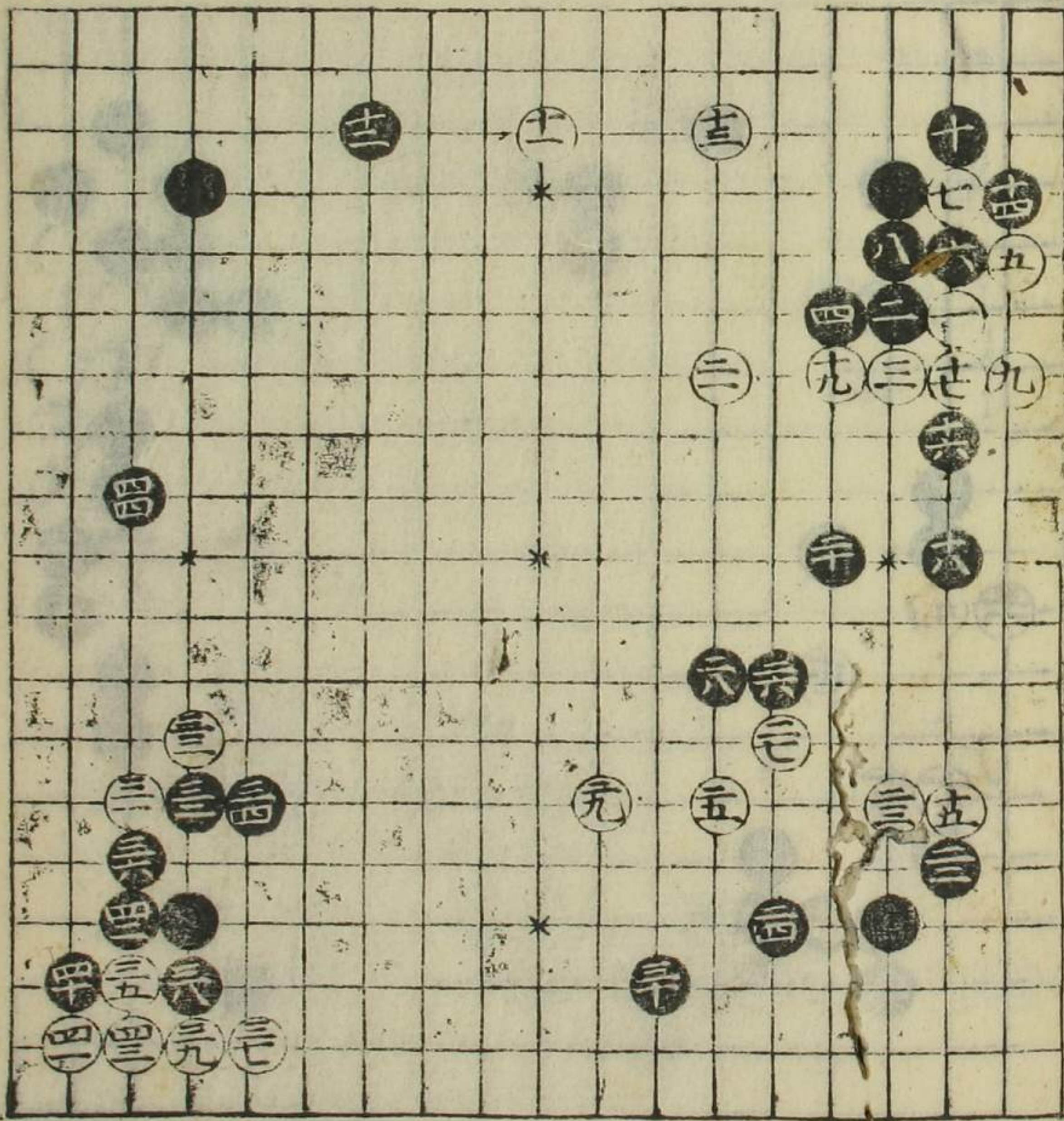
四十卷

四二卷

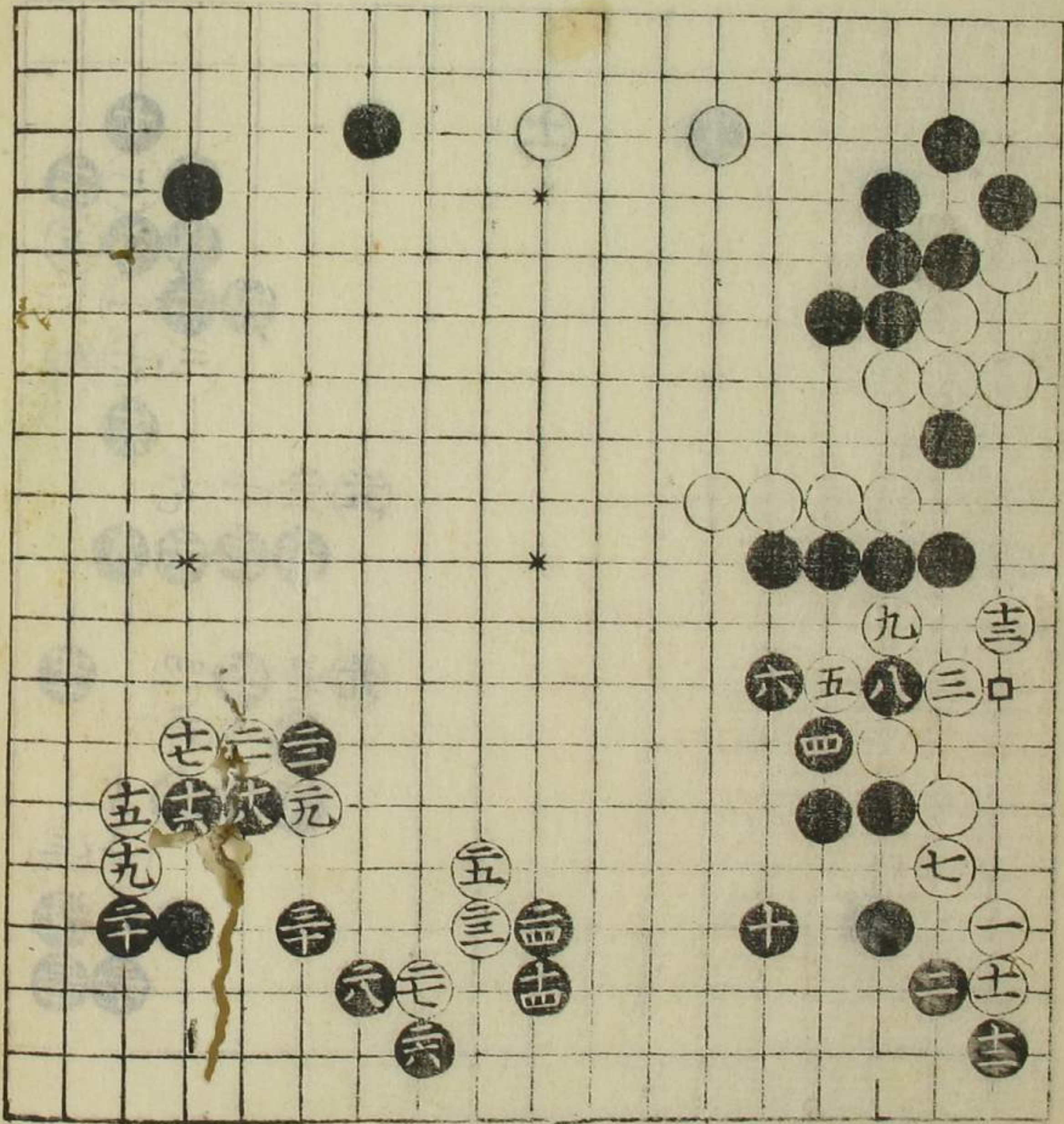
四目置之部



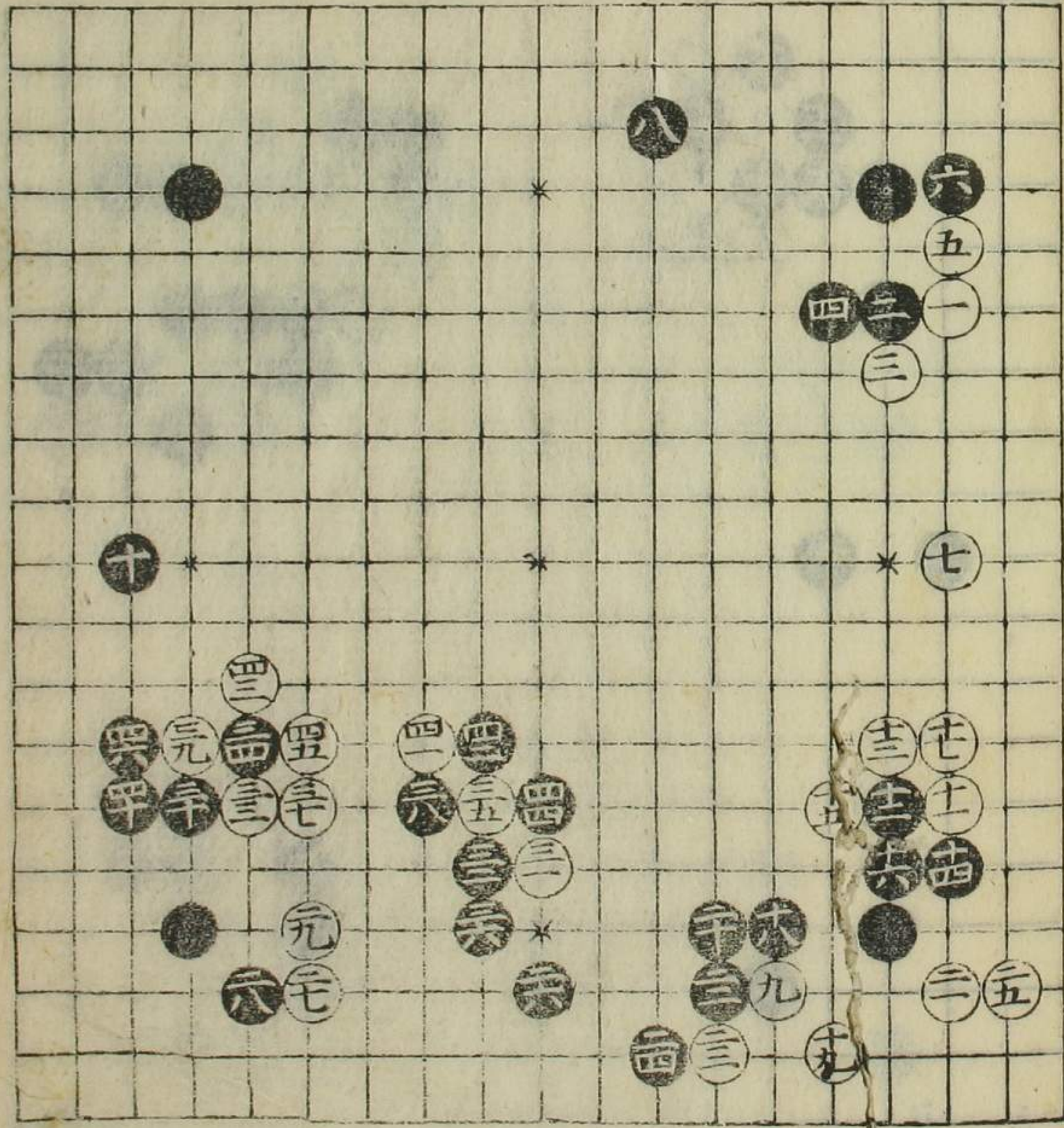
黒二六と歩二七と歩
せ二八を白悪き
形あり



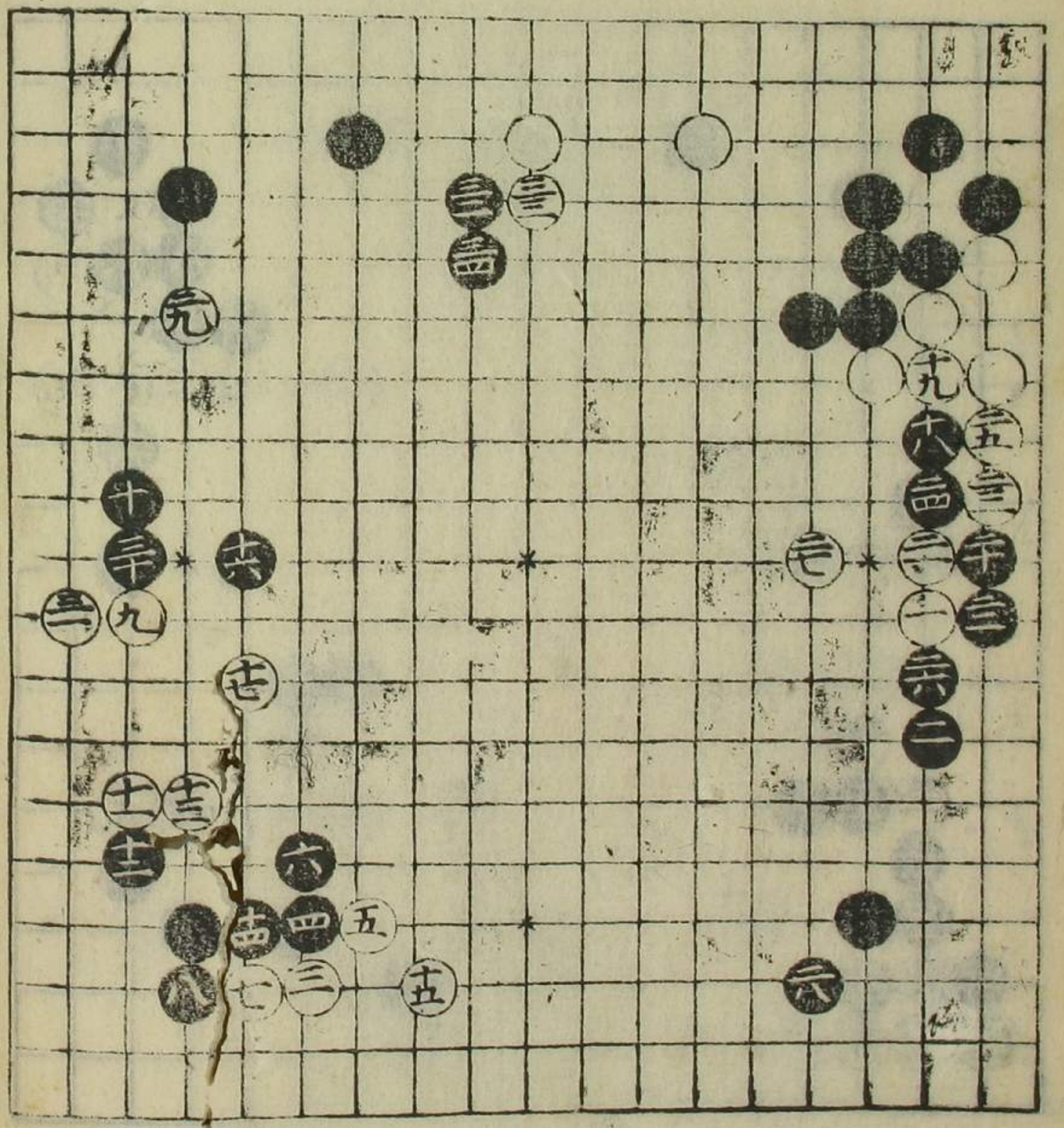
碁目白三九はより
歩あり
黒八の歩は置き也
白控碁付ハ口下付
打て死に歩あり
付ハ九とあり



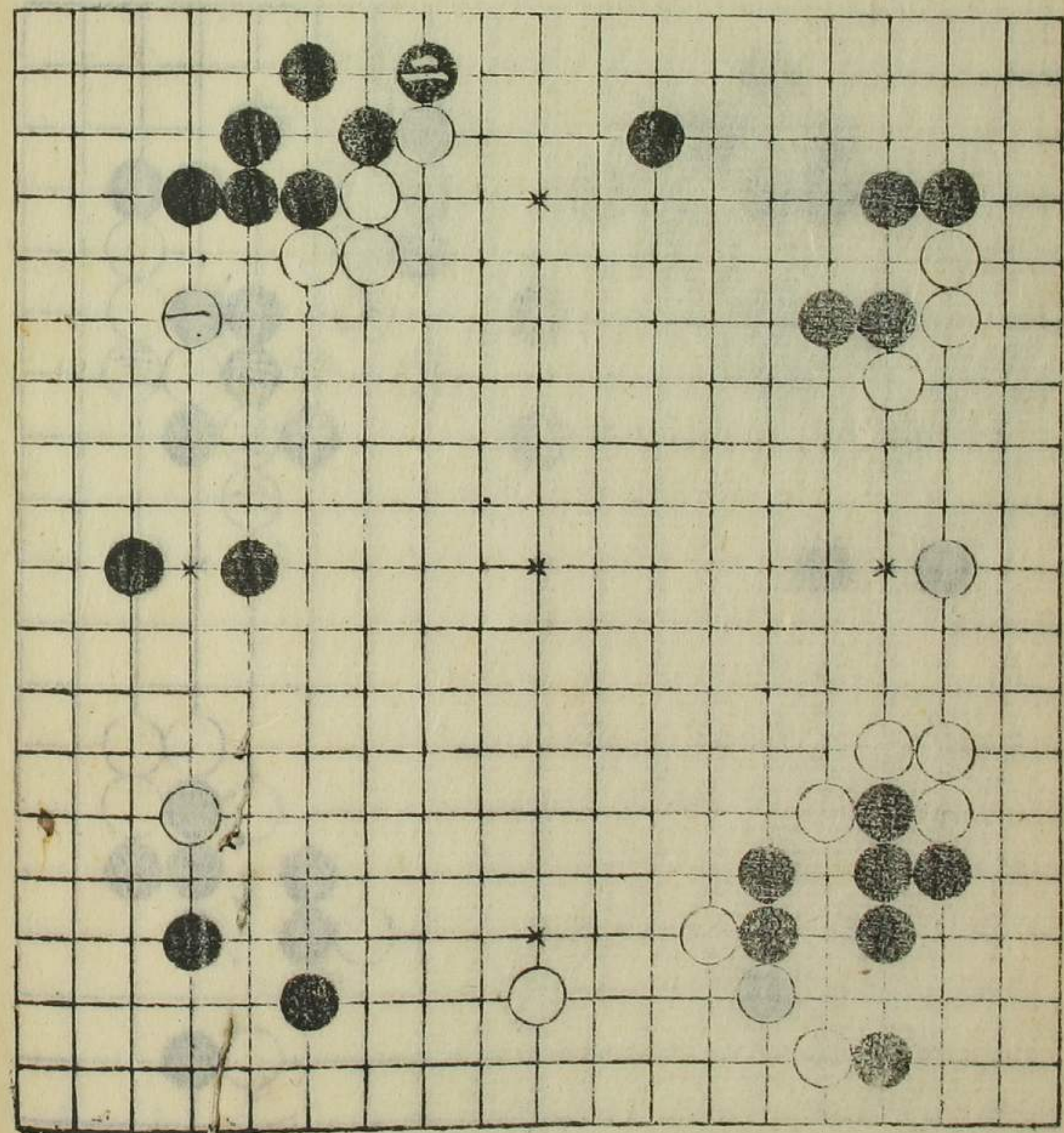
黒三三とつけて振勢
ア打と黒堅きゆ
ぬ此ちりてよ



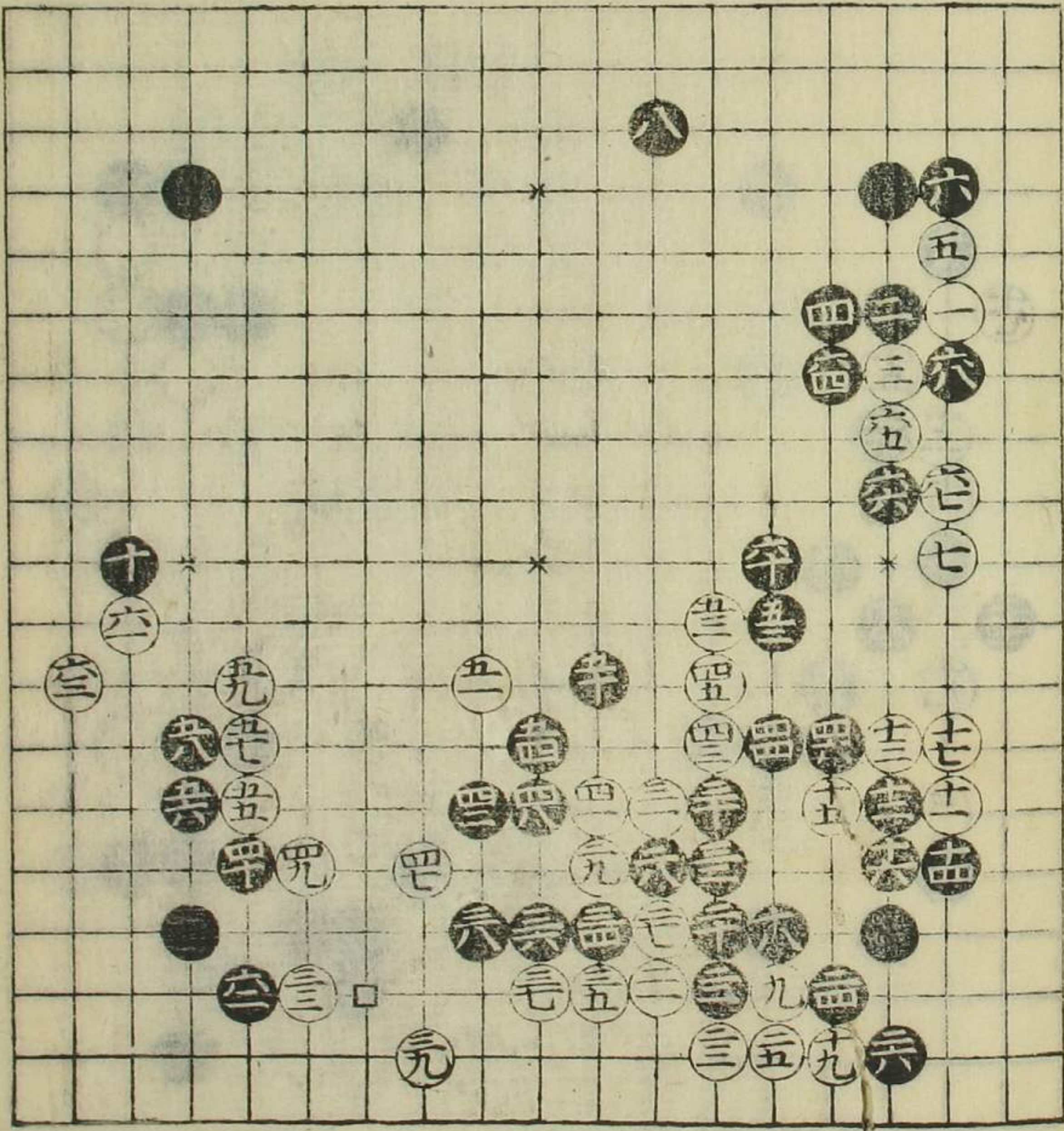
若墨白十五のより
黒二十は八角堅く
を成少くとも勝を
之面白きも能なり
黒三三直し二九は
之より不逼りて
おとこは白ア打を
ふ二平家守持た位
して却て打し



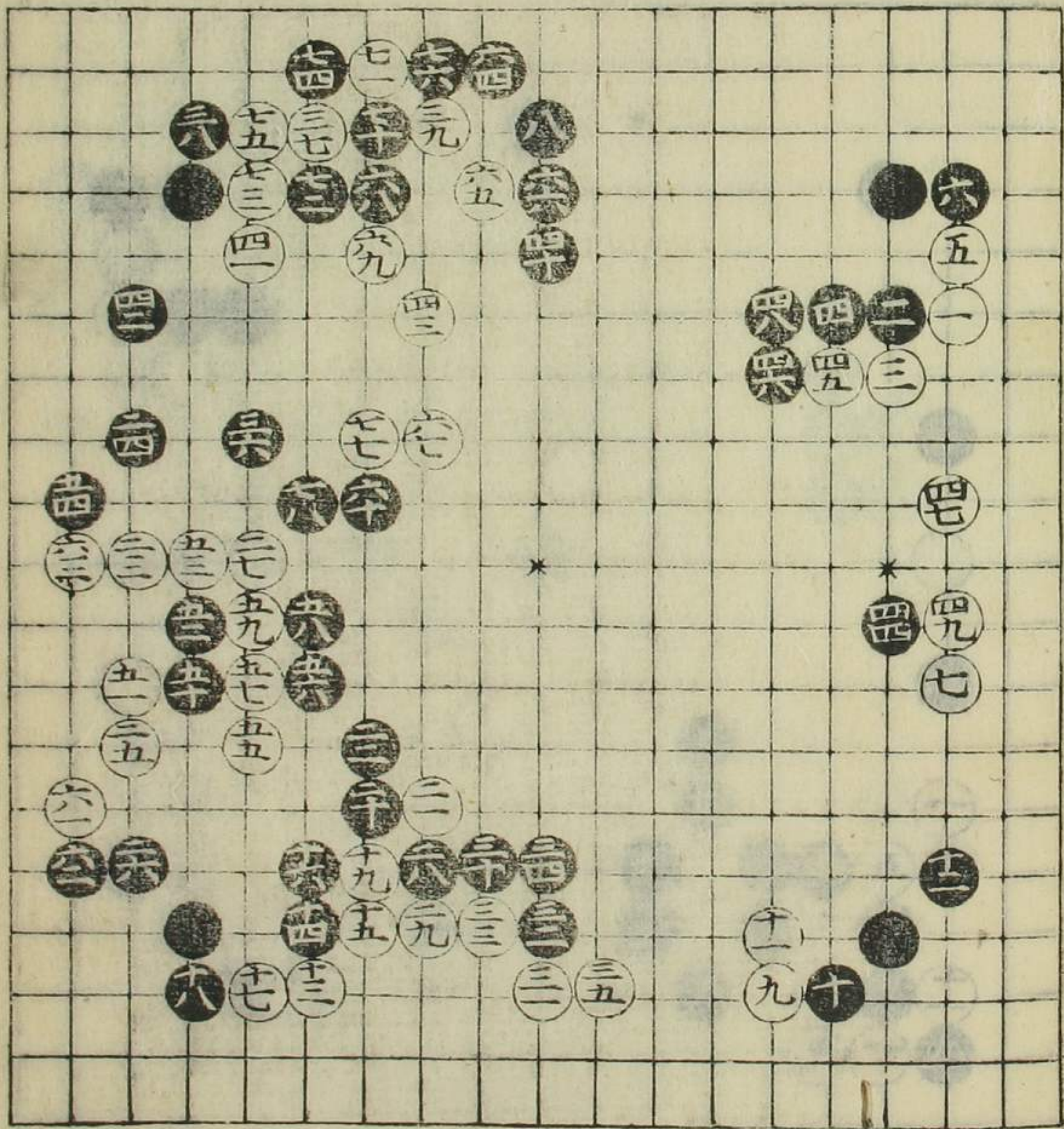
本星より一番目此白
 十九はより勢
 ぬはと打ハ二とを
 打ぬ白打方につ
 く黒の方打し



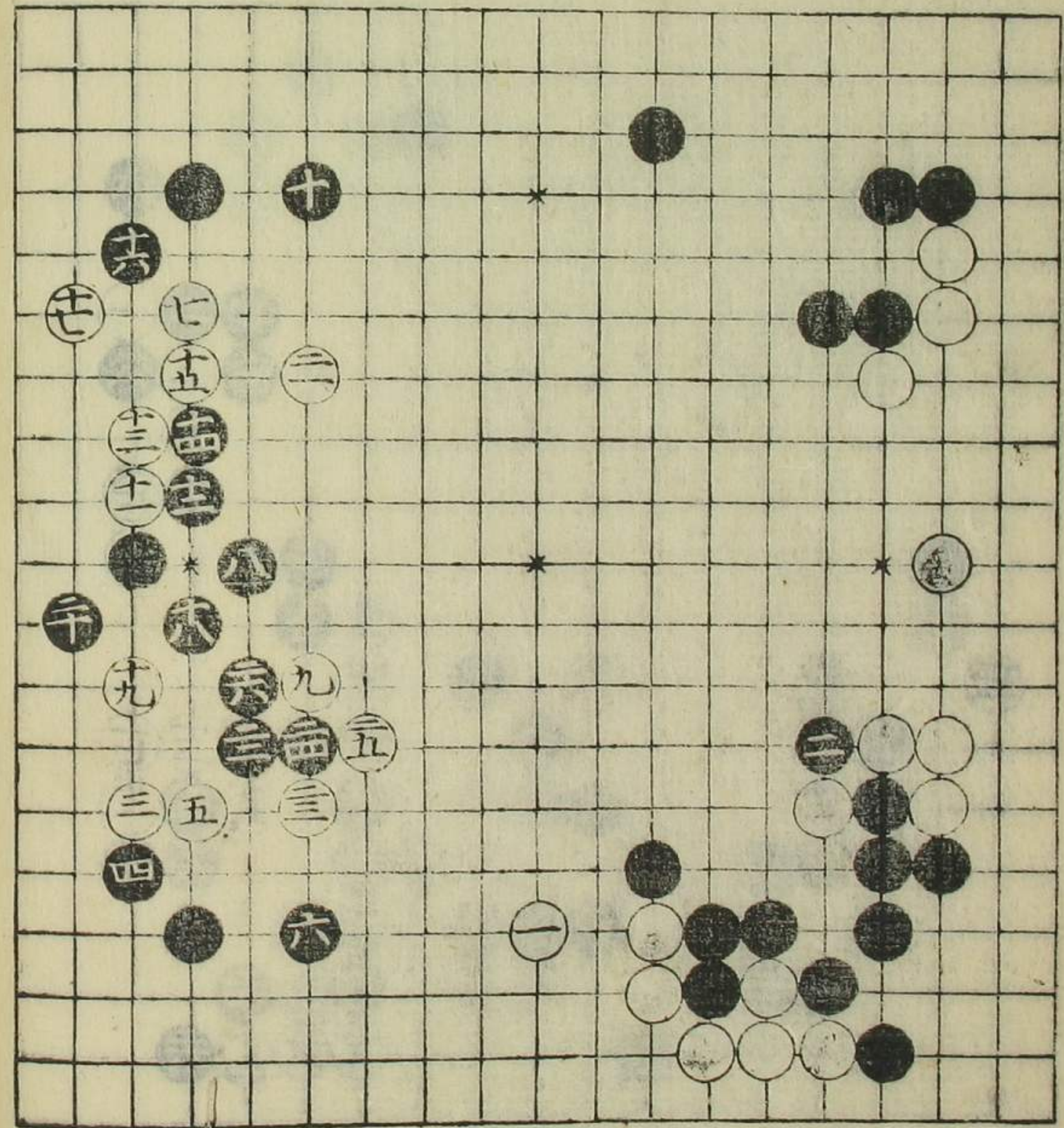
黒中此白取れくは
 あり一六八の切白乃
 あーらひをたるも
 ありは切ん初先打
 こく開く宜こと
 らぬて後自三五は
 あり三六の取押へて
 打六目のひて後口下
 又付切ぬ黒大よは



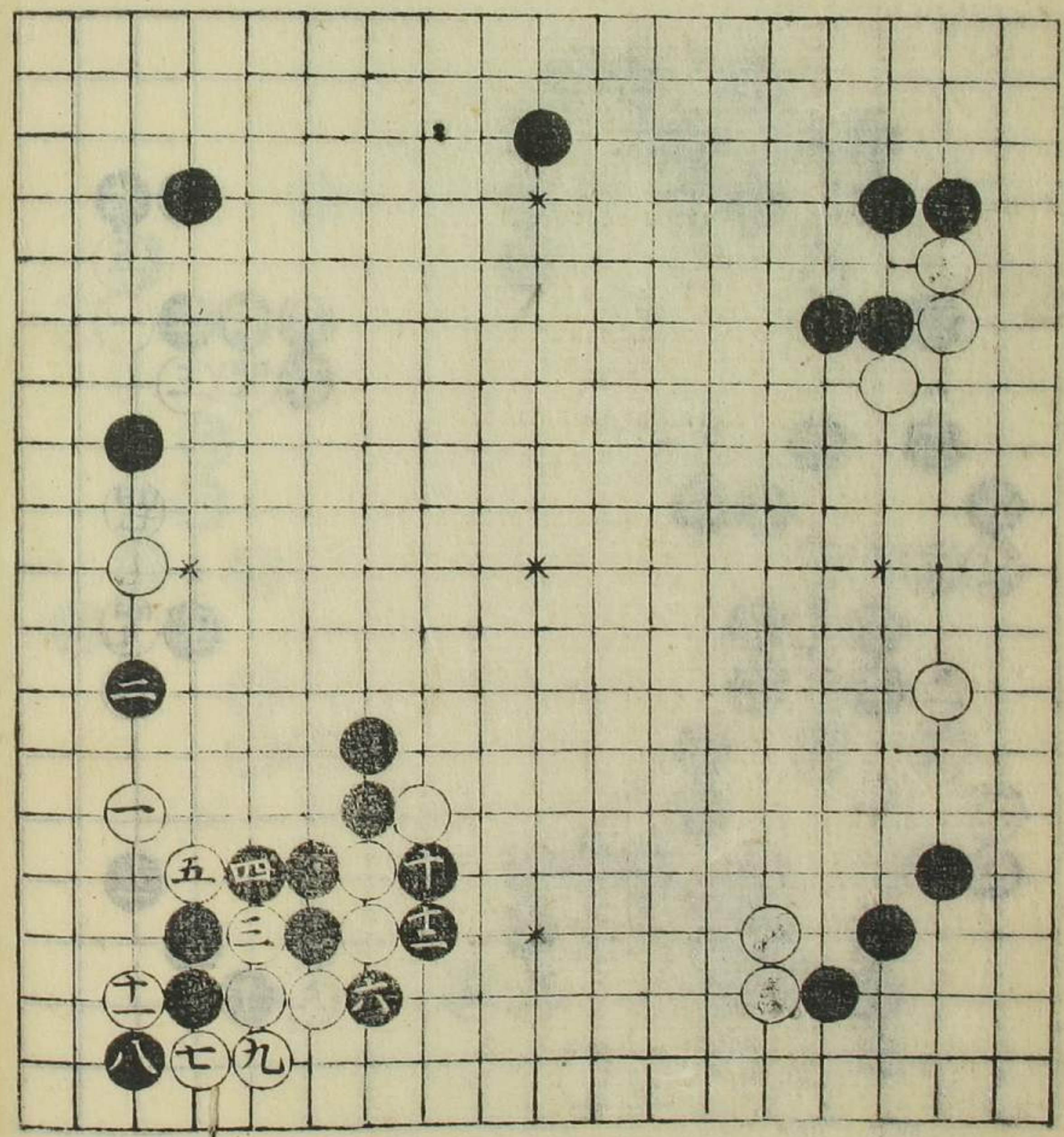
黒五十二の二目捨打終
勿りぬばありてハ
必傍の形之
四二名



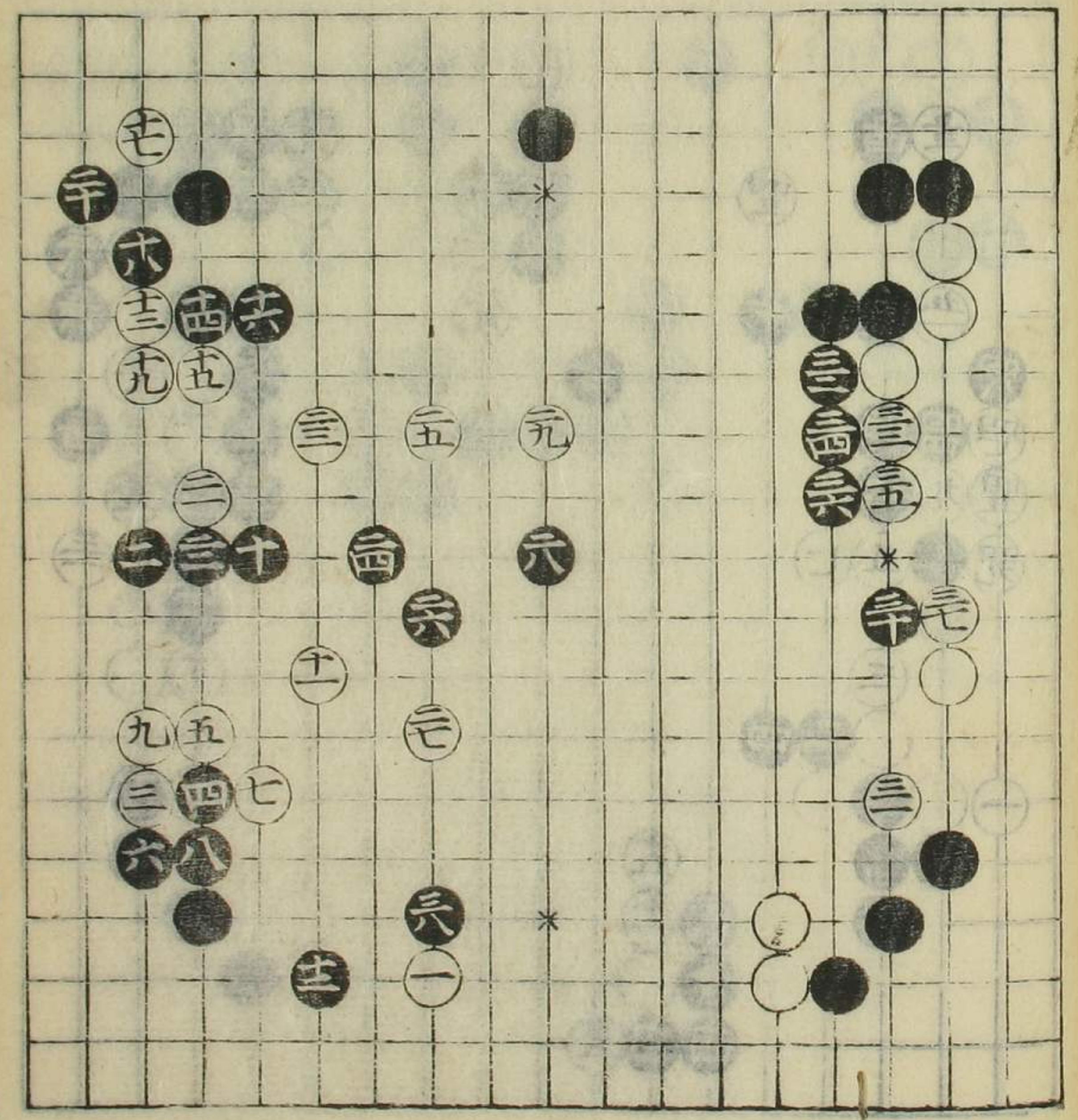
若星白二九はあり
勢ハ
如是ありてハ而
外



花星白二五以より
 勢
 白は是振勢より
 黒大子有

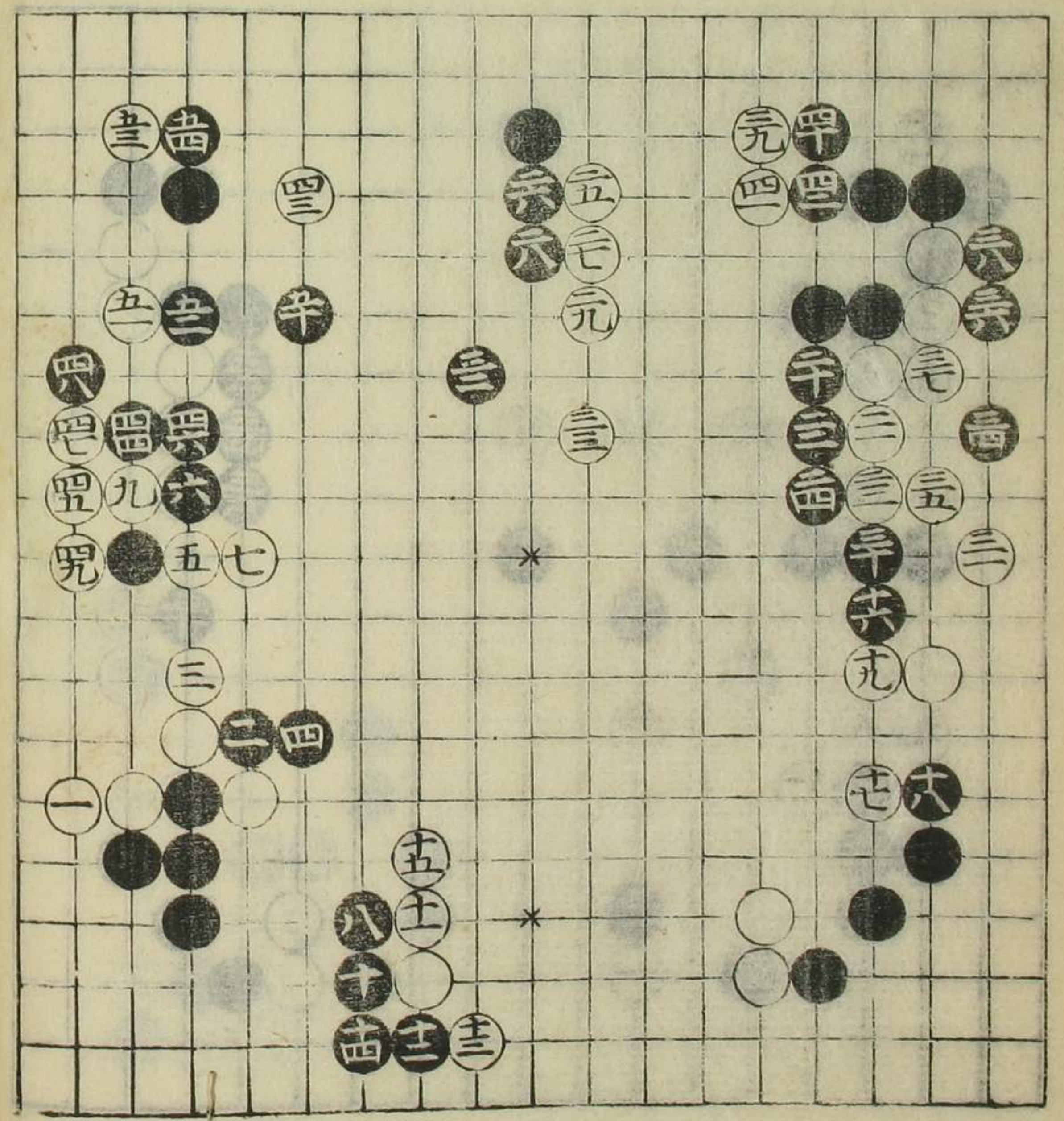


本星白十三以より
 勢
 此亦三三と押す中
 け黒石を後へ
 三八とついでお方
 面白き子讀あり

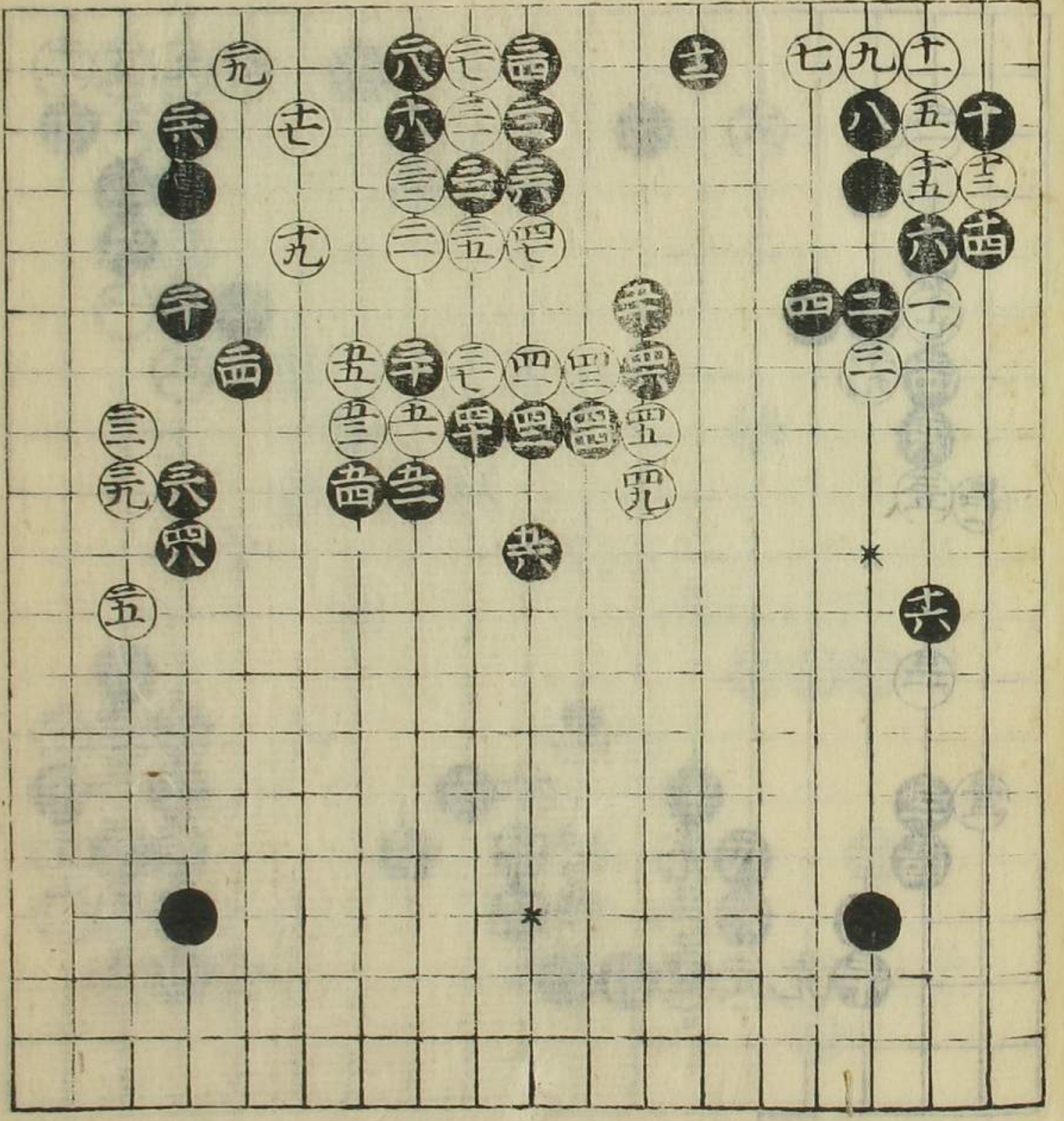


四目置之部

龍星白九のより
 勢
 ぬきあうても黒は
 うきぬも好か

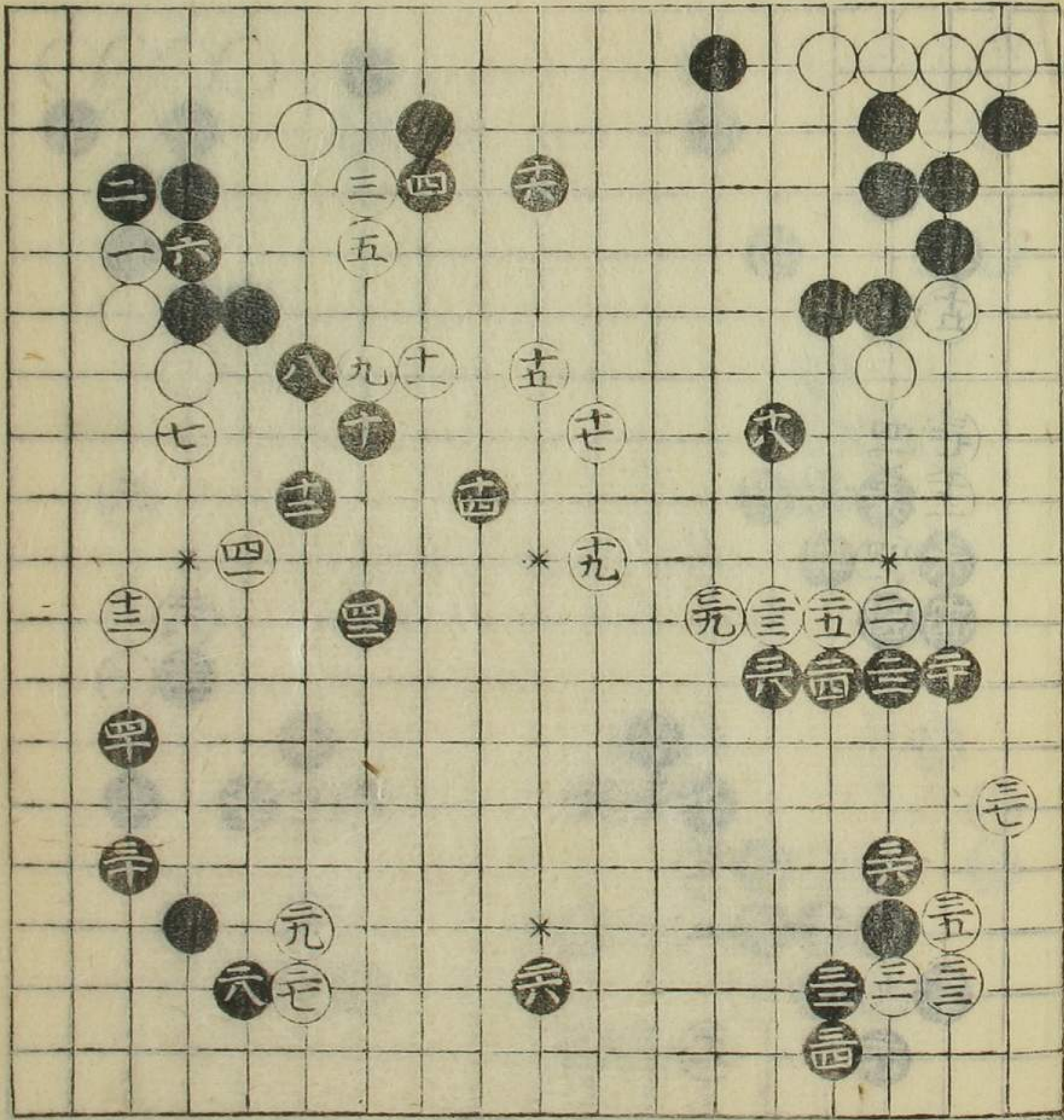


如うに大位や
 ぬくもの好か
 治まる

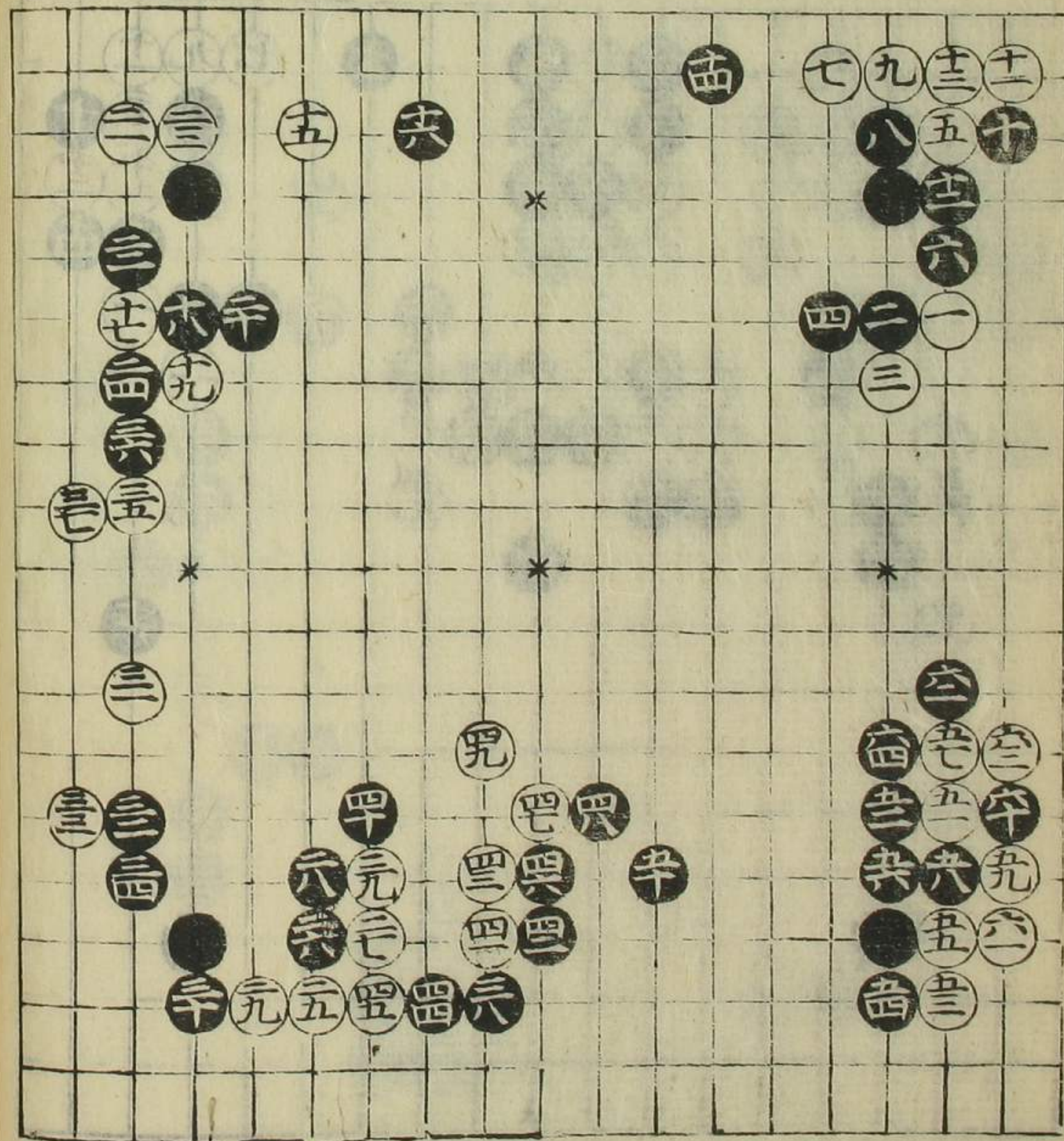


四目置之部

若墨白二以もより
 勢り
 ぬ毛勢りても黒は方
 大よ直したく人々上
 子とせは施す言ひ
 法をんんの

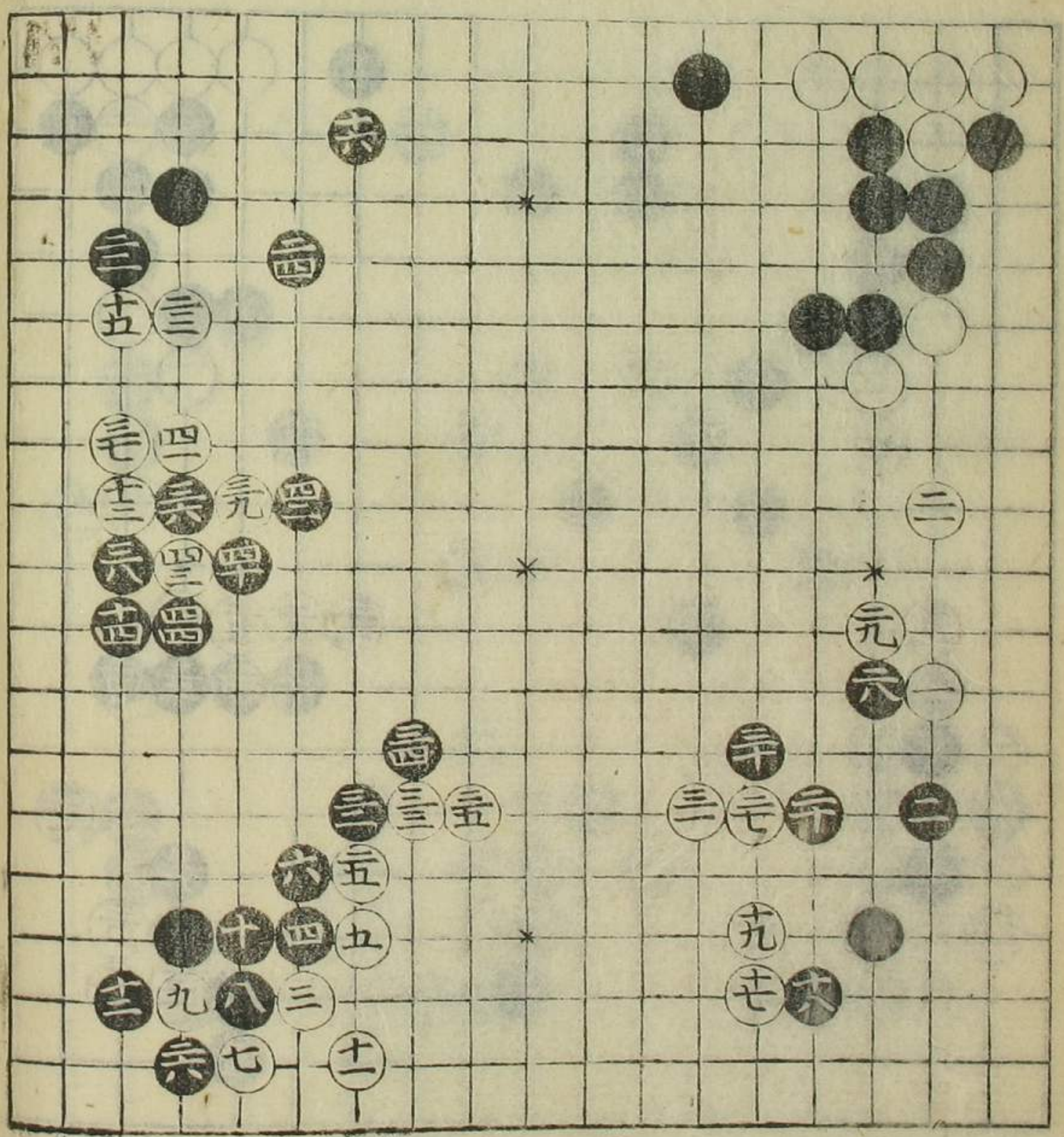


黒は白より世方振勢
 少くも少くも少くも
 か



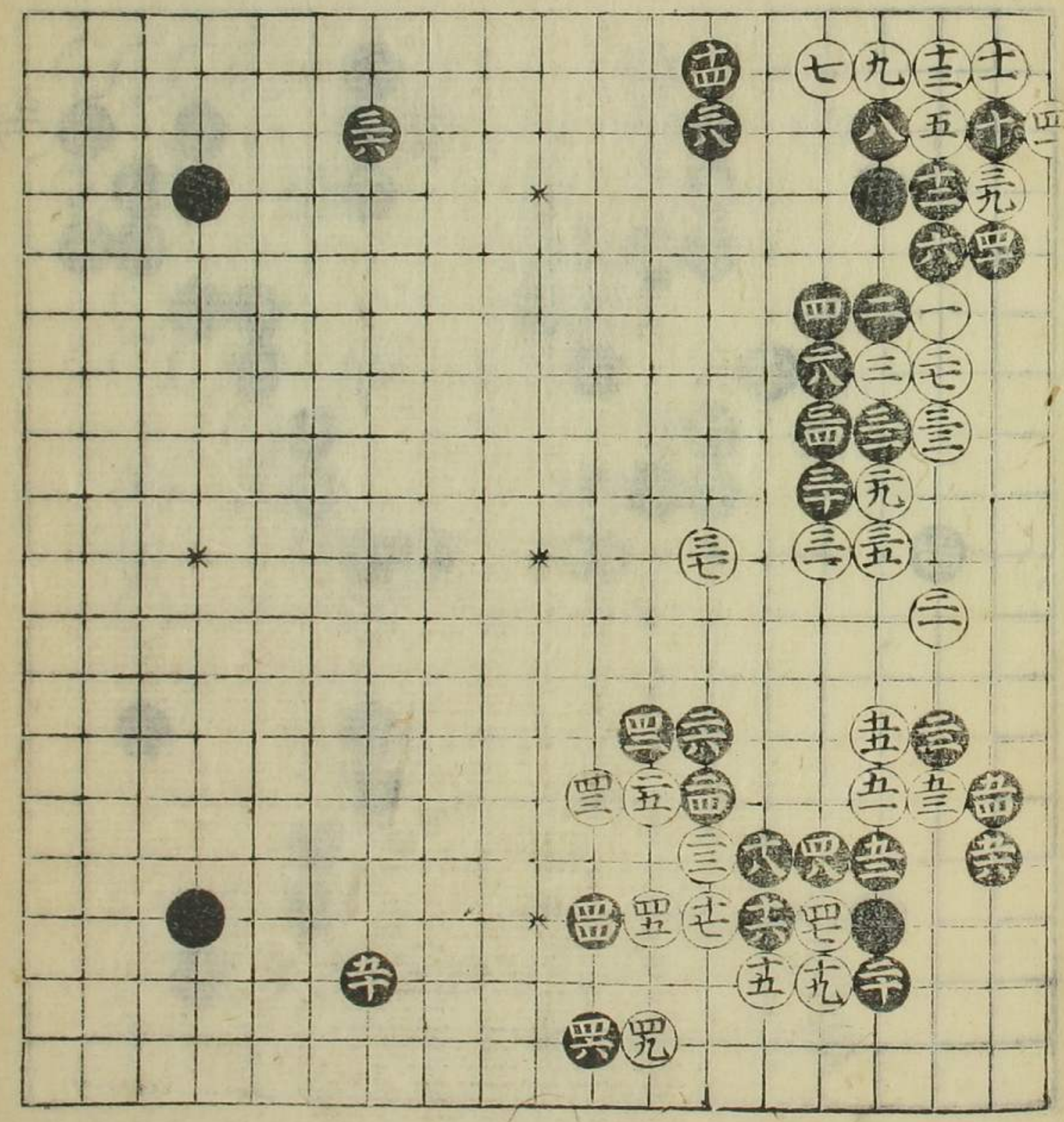
本堂自十五打より
考す

黒三六の一目を捨て
おろしはるゝに
何れし劫をさるゝ
甚宜し

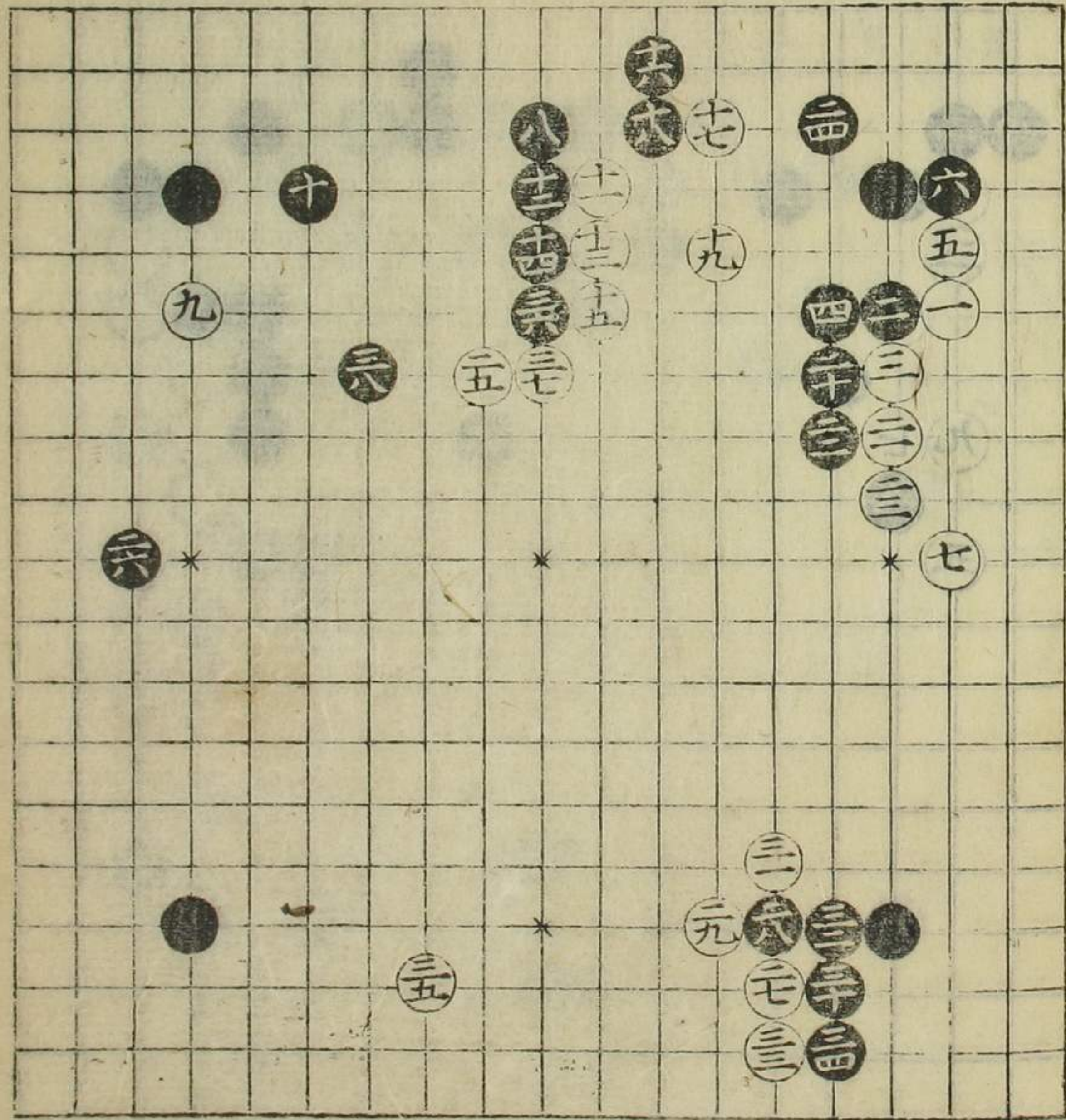


世石立治れぬし五四
漸くおろしはるゝに
筋たより心惜し
四六右

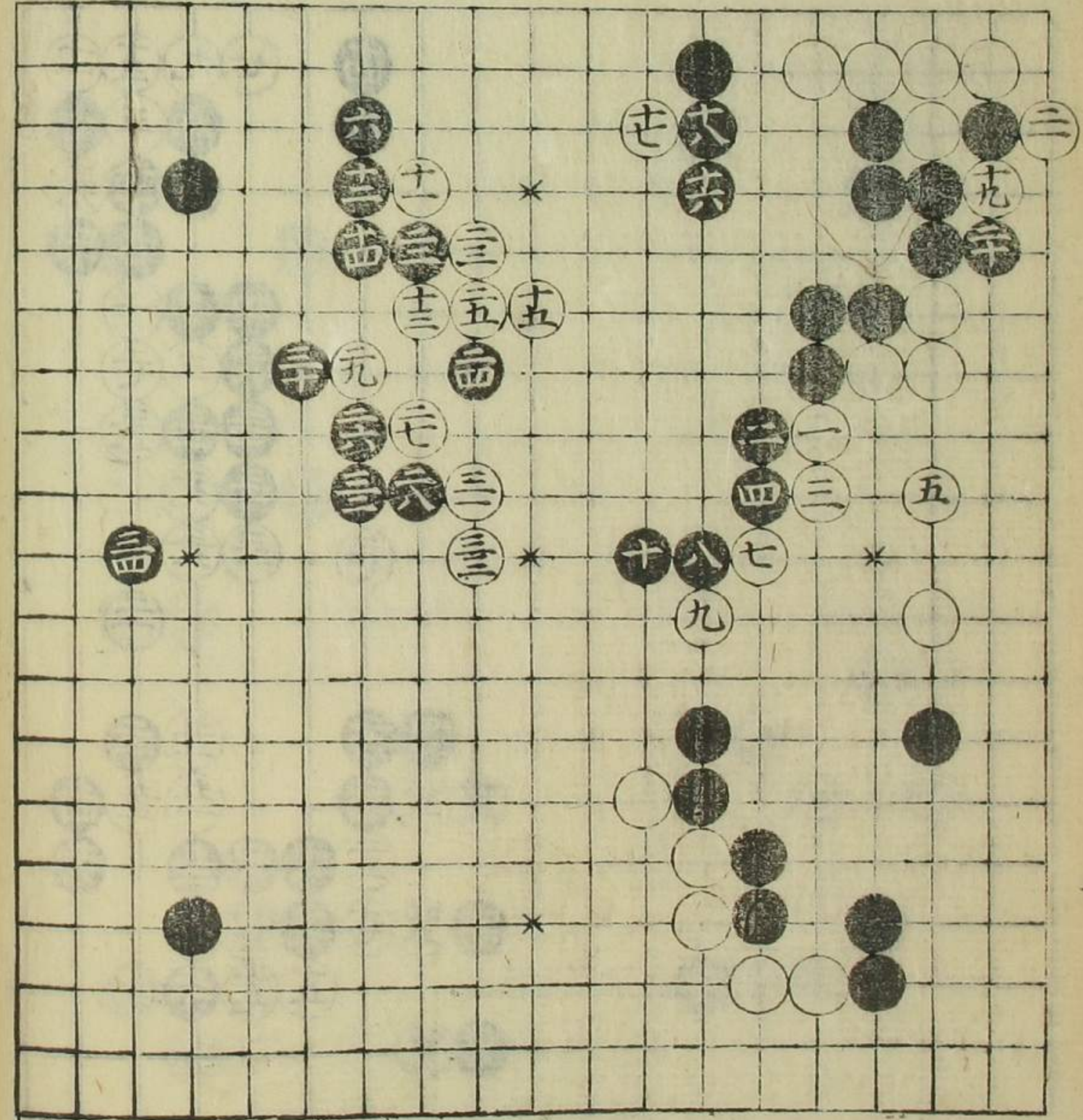
四目置之部



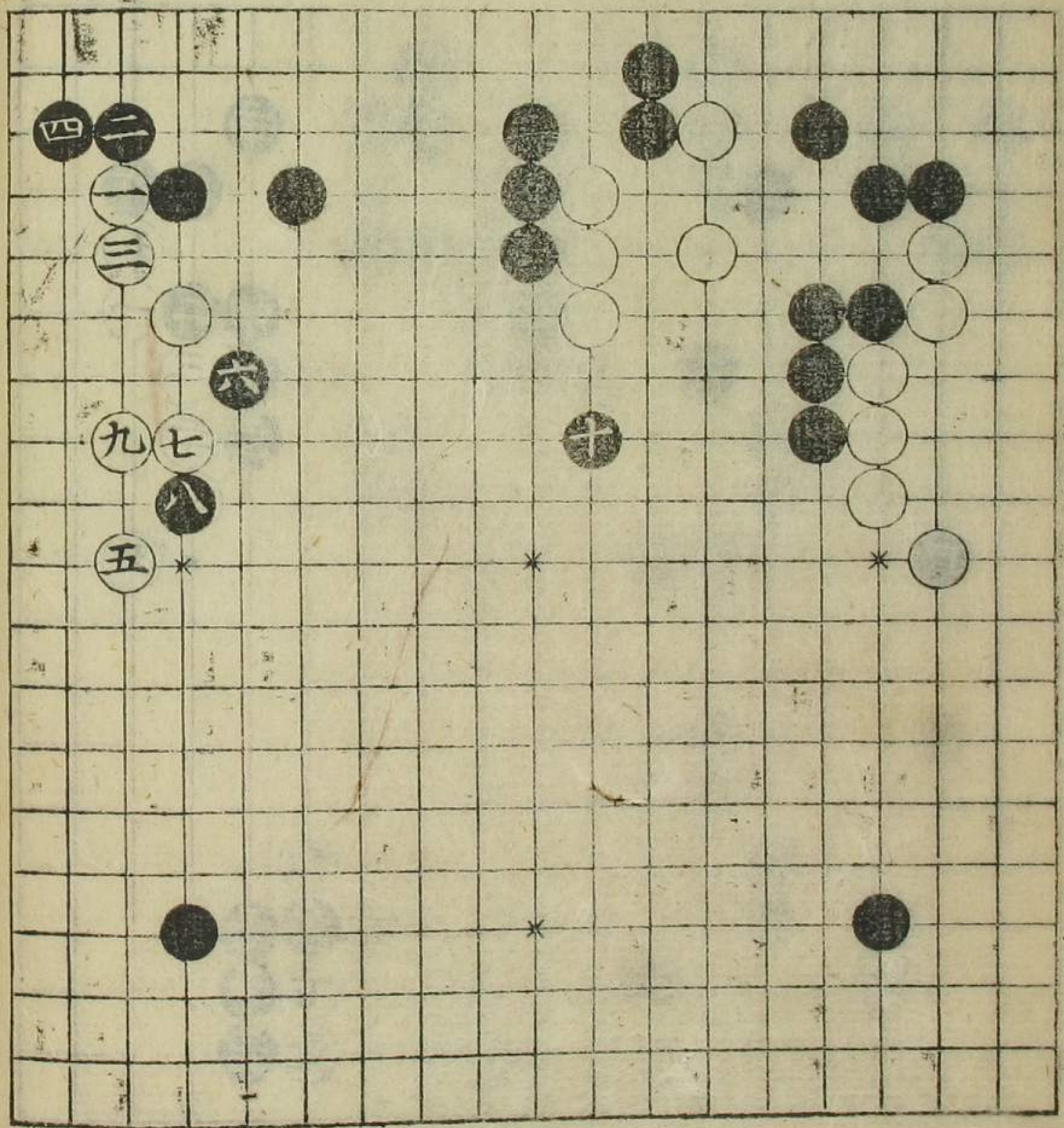
黒三六のふたは悪
一三八とあやうくの
趣向はあましくハ面
あり



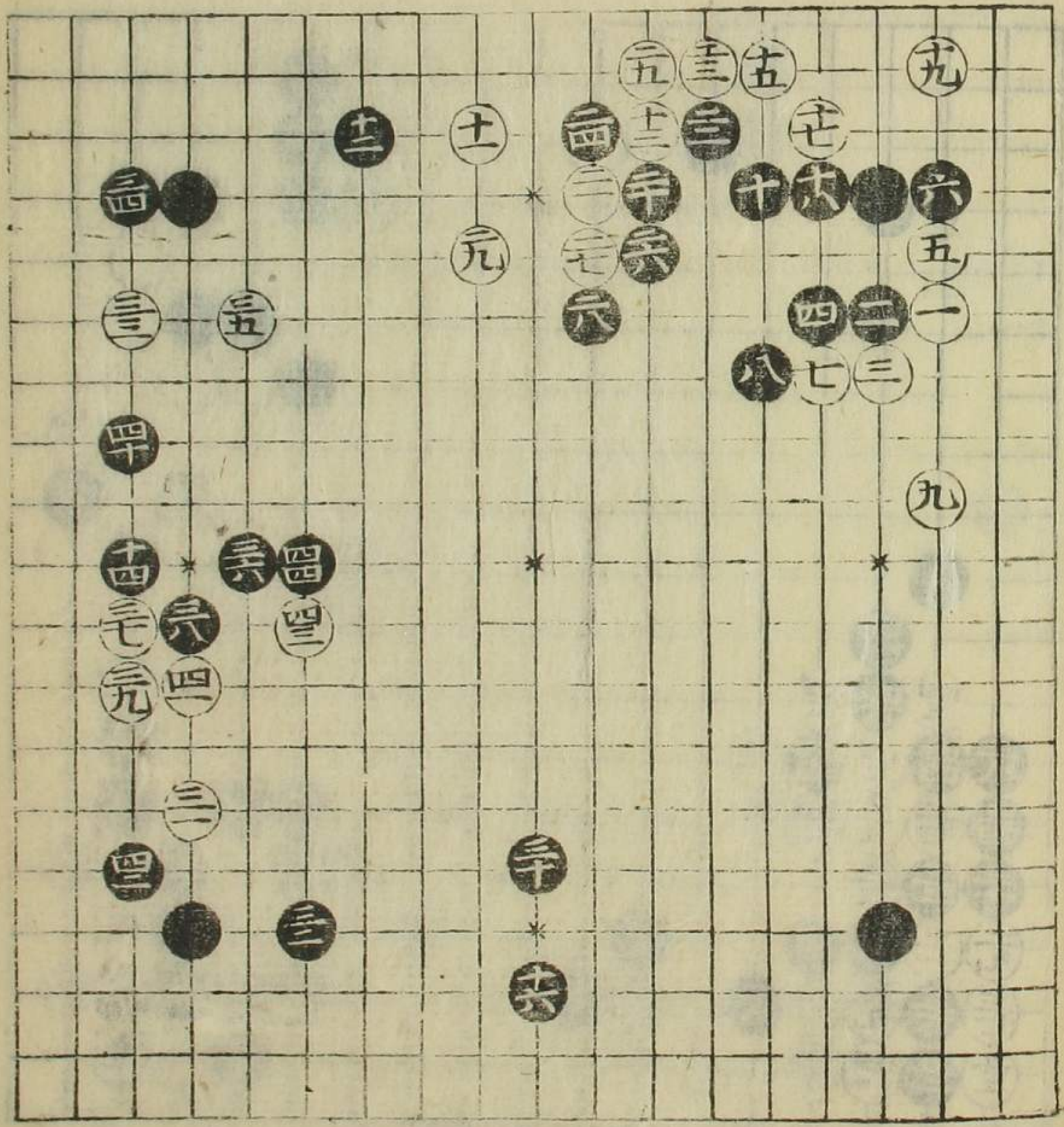
若くは白二九のふたは
悪
ぬ此振替りては黒の
方大に善白五れもの
不黒よりおきては
何しきぬぬ白打に



碁盤白二五九より
 移る
 白五九を悪し黒
 六八と打十の石は
 大よよ

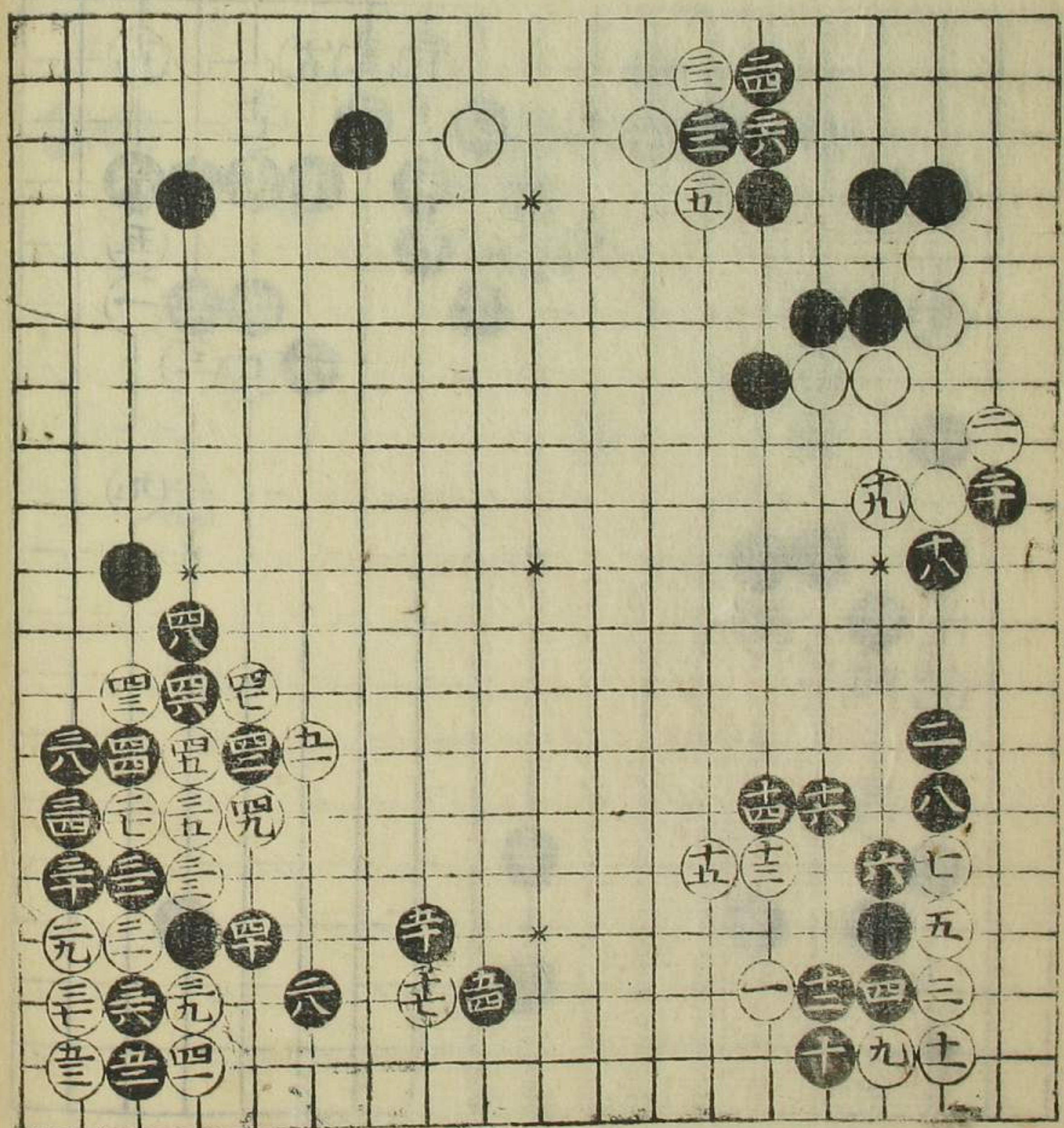


黒四二より白三と
 打せ中押しの石は
 単一黒厚の石
 大位より打す
 新

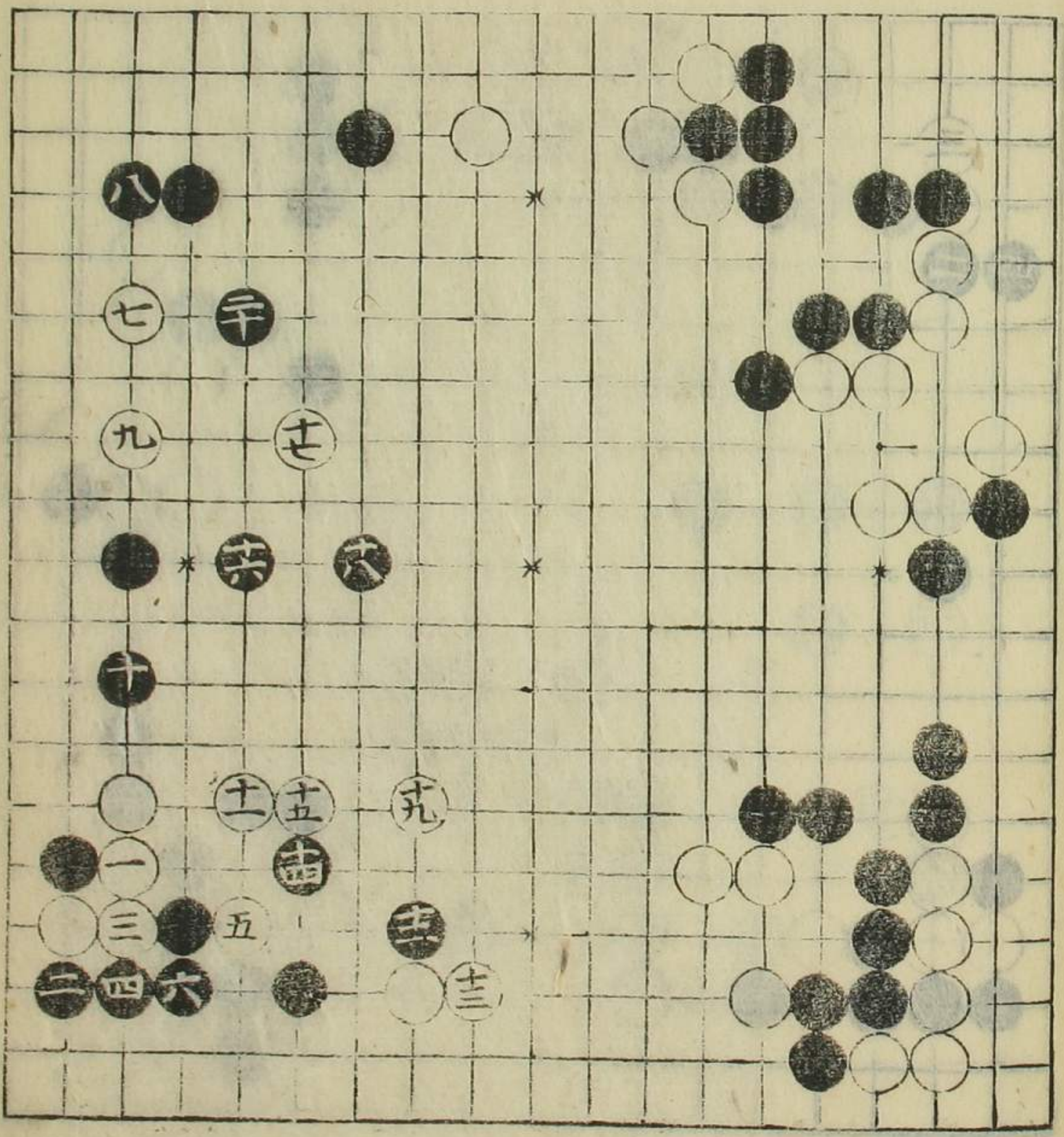


四目置之部

最黒白十五はより
 移る
 黒三六の石は打附ハ
 四十九は白とて目
 換る所を以て並之
 此の石は同くあると
 ありぬは移りて黒
 一

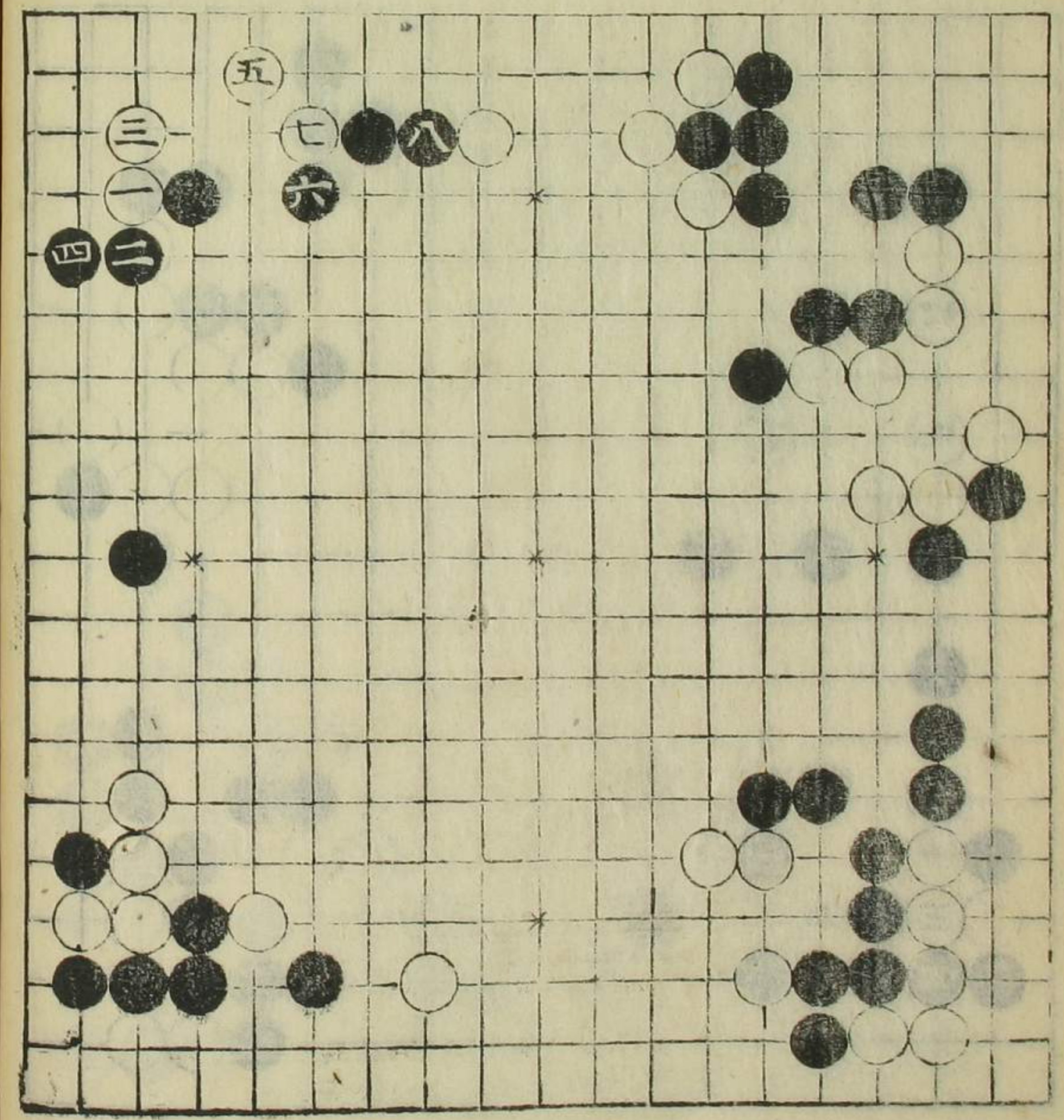


最黒白三はより
 白十七二間花取二十
 已打事ふ角を以て
 今く左右白うすく
 玉打打よとて後之

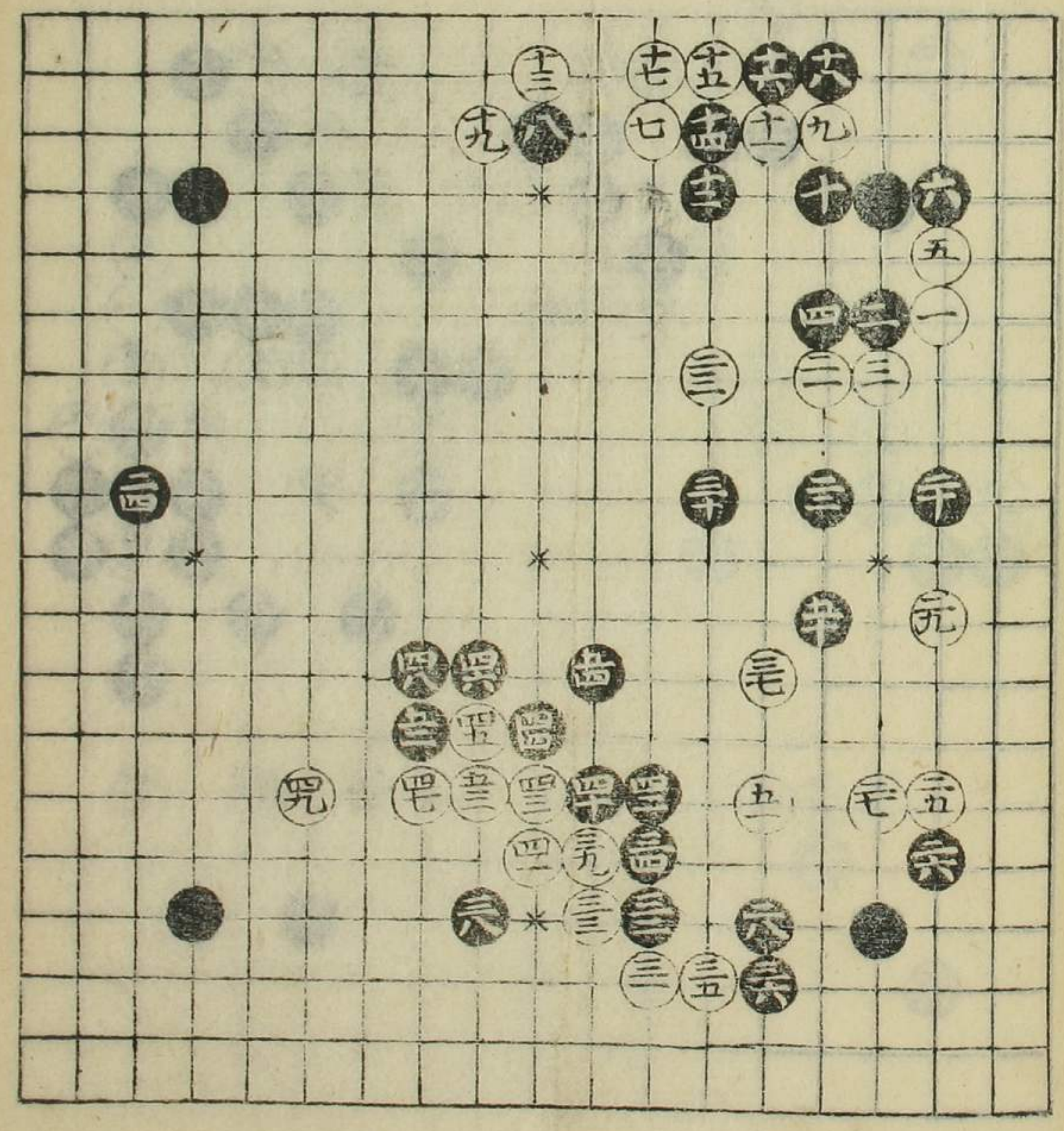


四目置之部

前盤白七れより
 好む
 此盤白打ても二面花
 の石並や黒位より
 殆どなし白と打附
 二とぬ是打と外れ
 換やうふありて打こ
 黒白共考打べき
 多法之為難考古々々
 白より打せ黒れも
 筋をあらうしむ

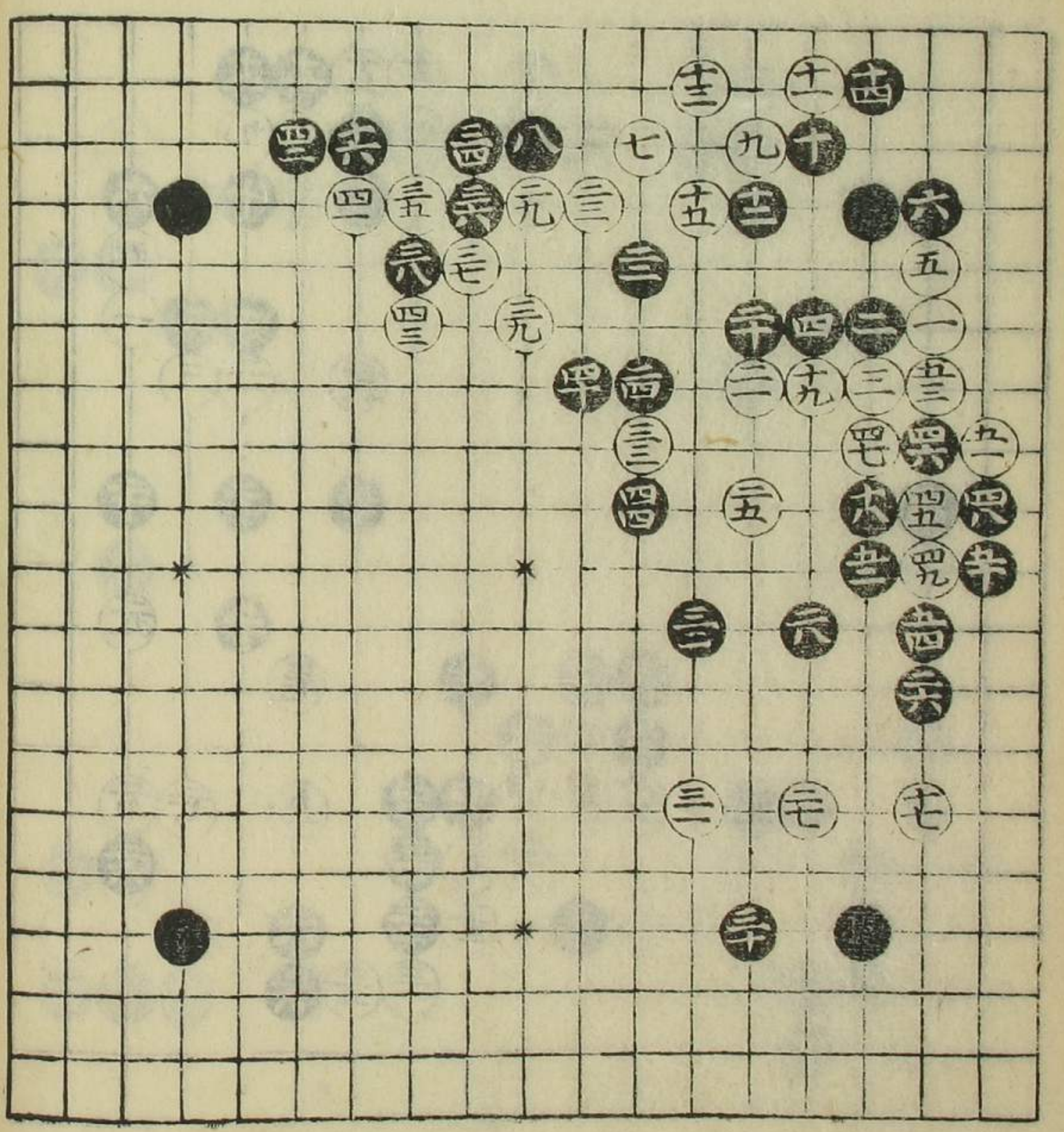


黒五十右左右の白を
 捕らひ打之黒厚くして
 白打きよ法好



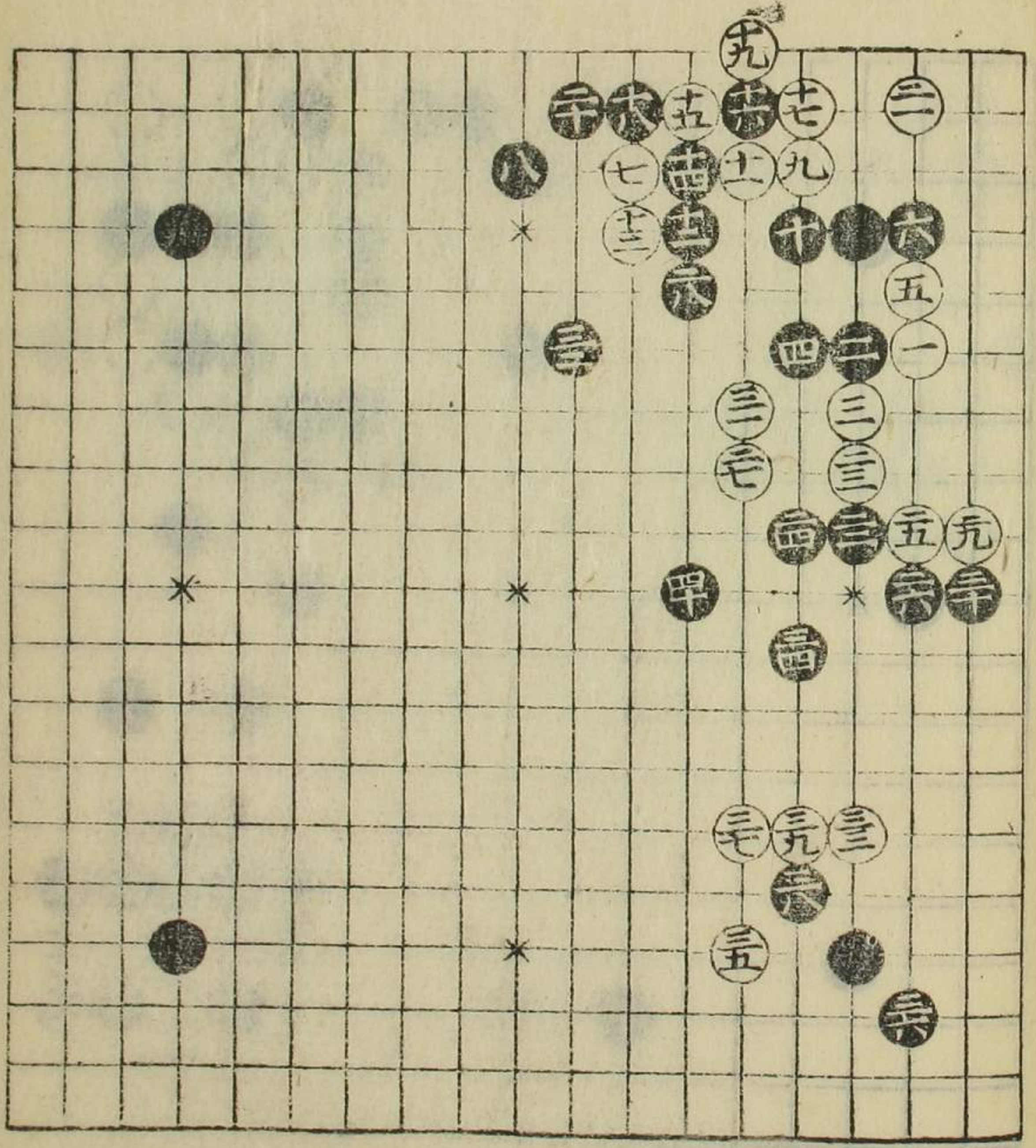
四目置之部

四十三七の石目
 取らば直ぐ死ぬがれ
 石のたきとせして八四
 四の石をふかしては
 打也



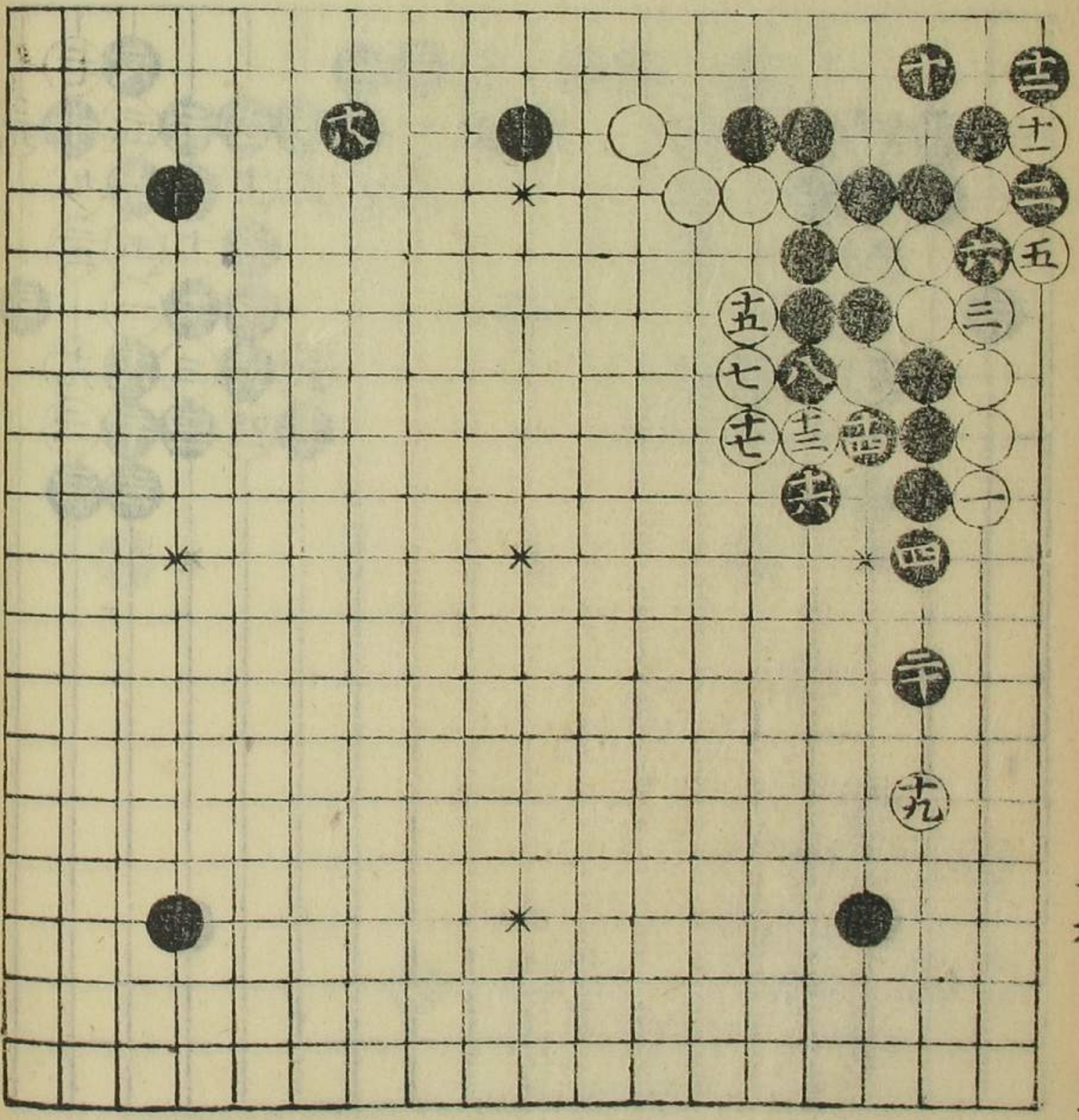
黒三六の石を三八
 尖八白三六の石を打也
 此は打之は石を助る
 まわりとを危し

四目置之部

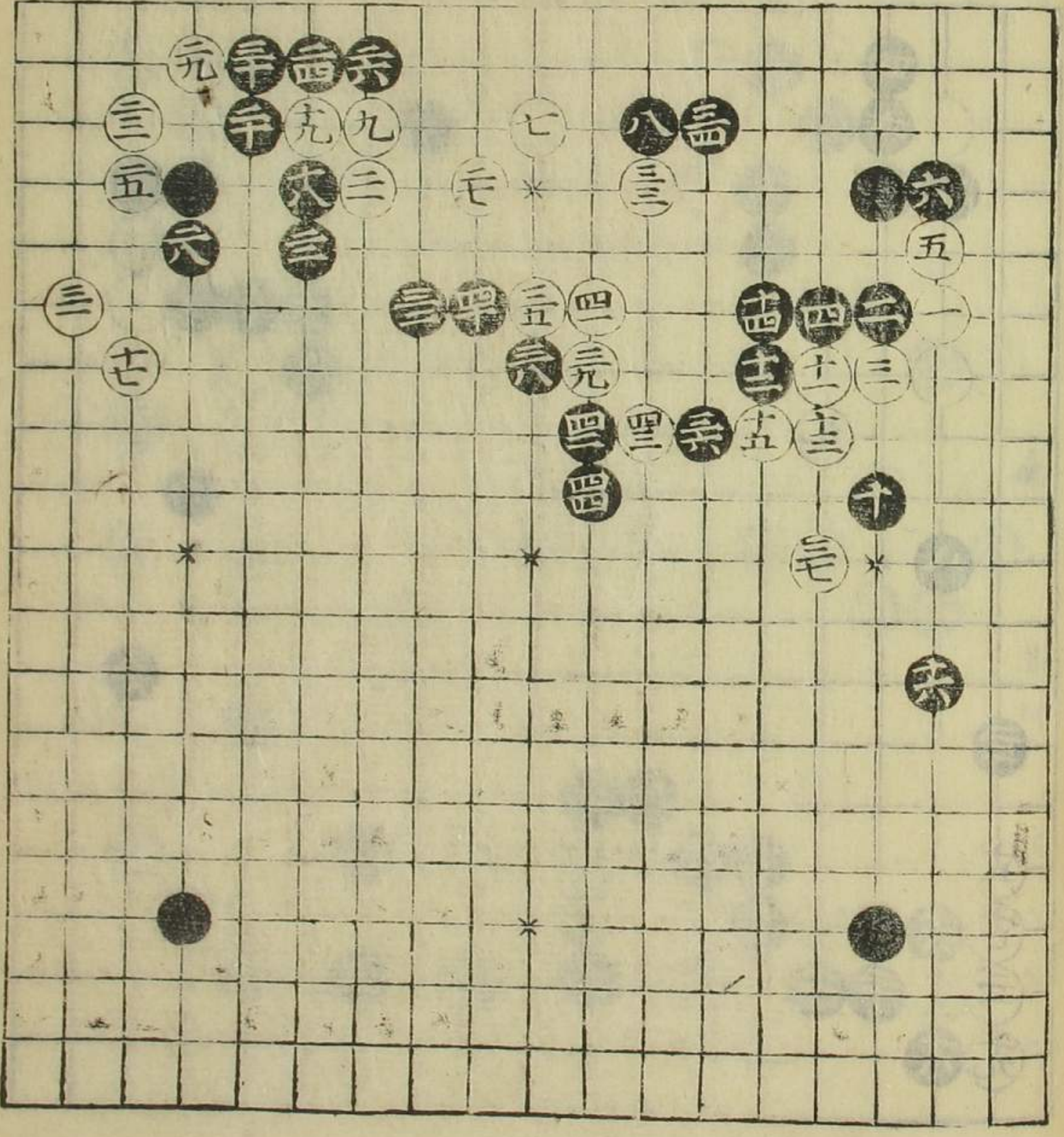


飛石白三三三

此ありては黒石二十
 二回飛石を取らば
 急ふ一の石を押せば
 十九石(入まじ)あり
 ぬき打之打とるも
 能あり
 九劫とる

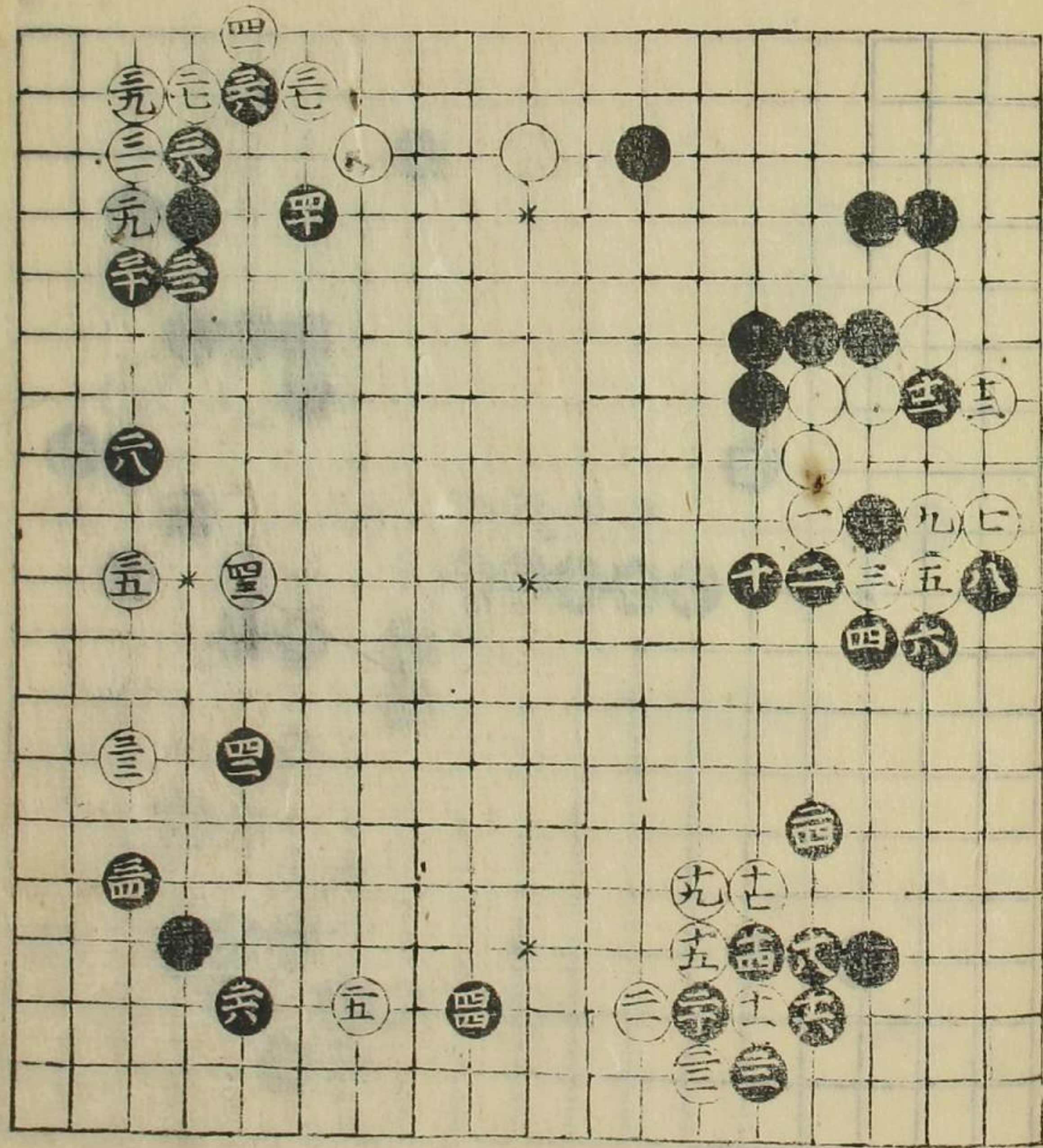


黒は急げ打とる
 白は方む打とる
 右白三五四の石
 へ打とる四と打とる
 左黒一四の黒石共
 小大の石も打とる
 らしむるあふきを
 記す

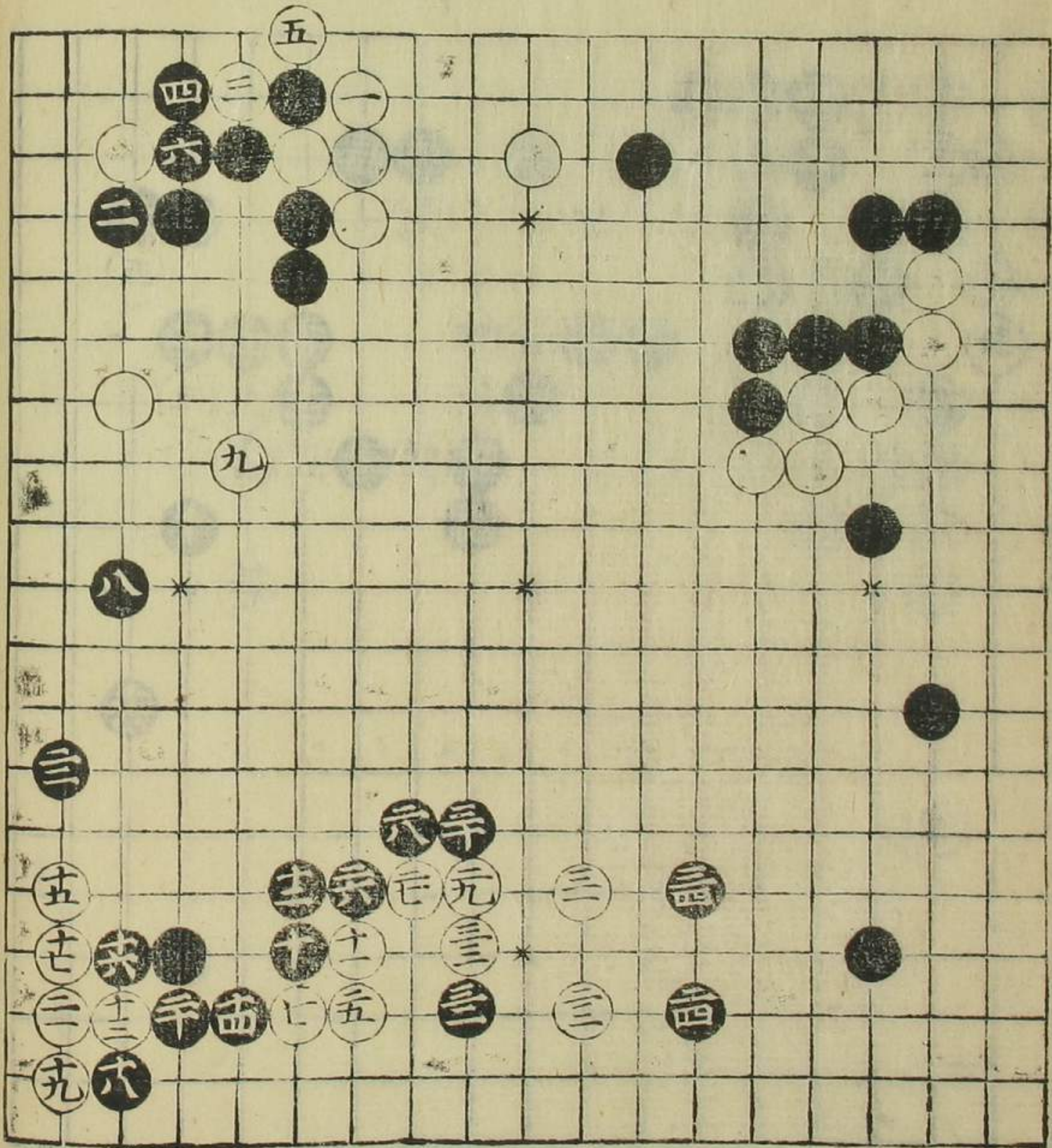


四目置之部

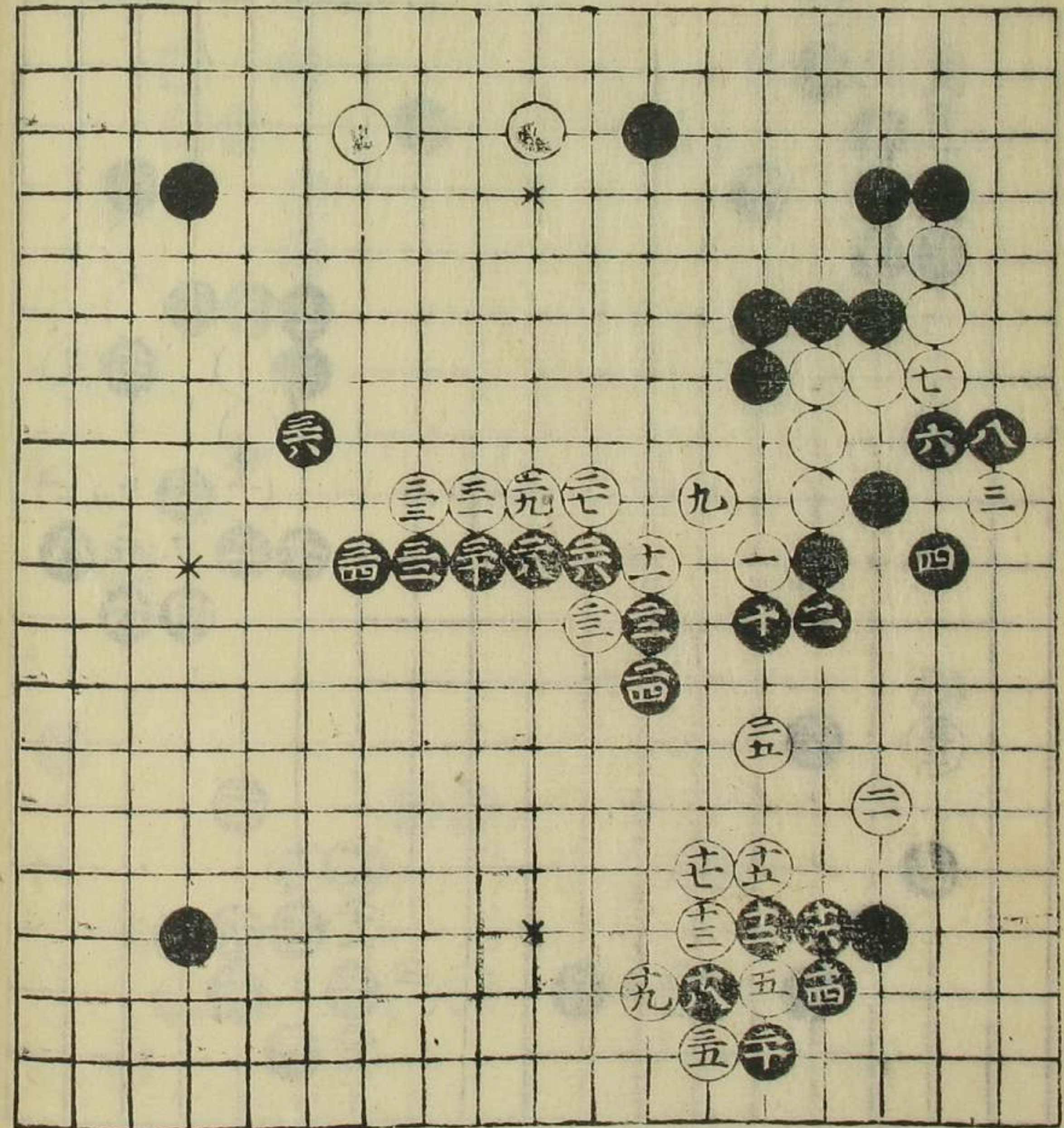
本星自十五此より
移る
三と切せ一目控て
一白悪し四と打
四と打迎も後者
白打方移り決り凡
以石互黒大り者



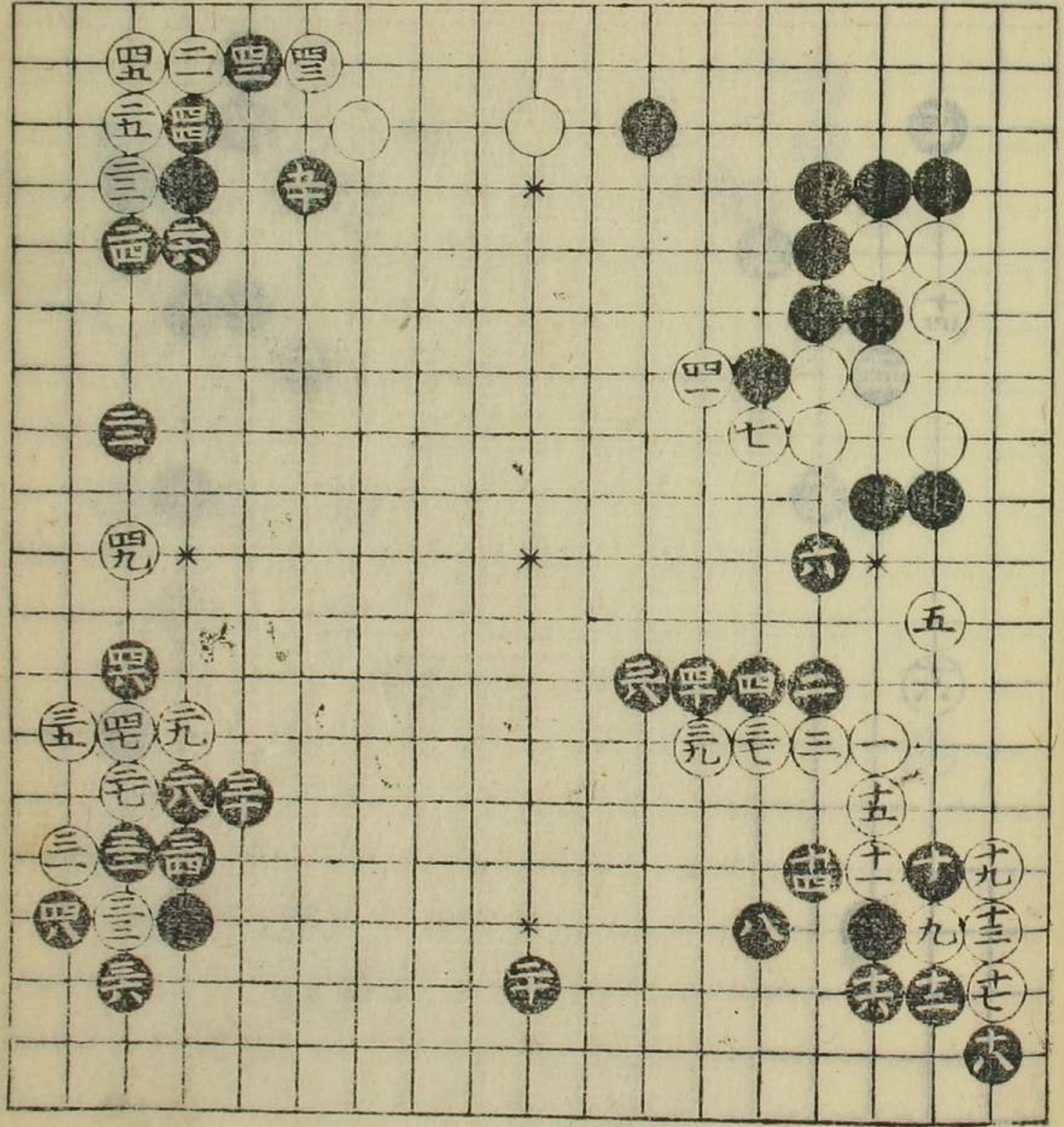
前圖自二五此より
移る
此よりても黒打
より



若白三ヶより
 妙
 三六斜走位格不之
 白ありあつたはより
 ちまとも三五のふ捨
 是かたよあこれ振
 初りても黒ありま
 石まかり

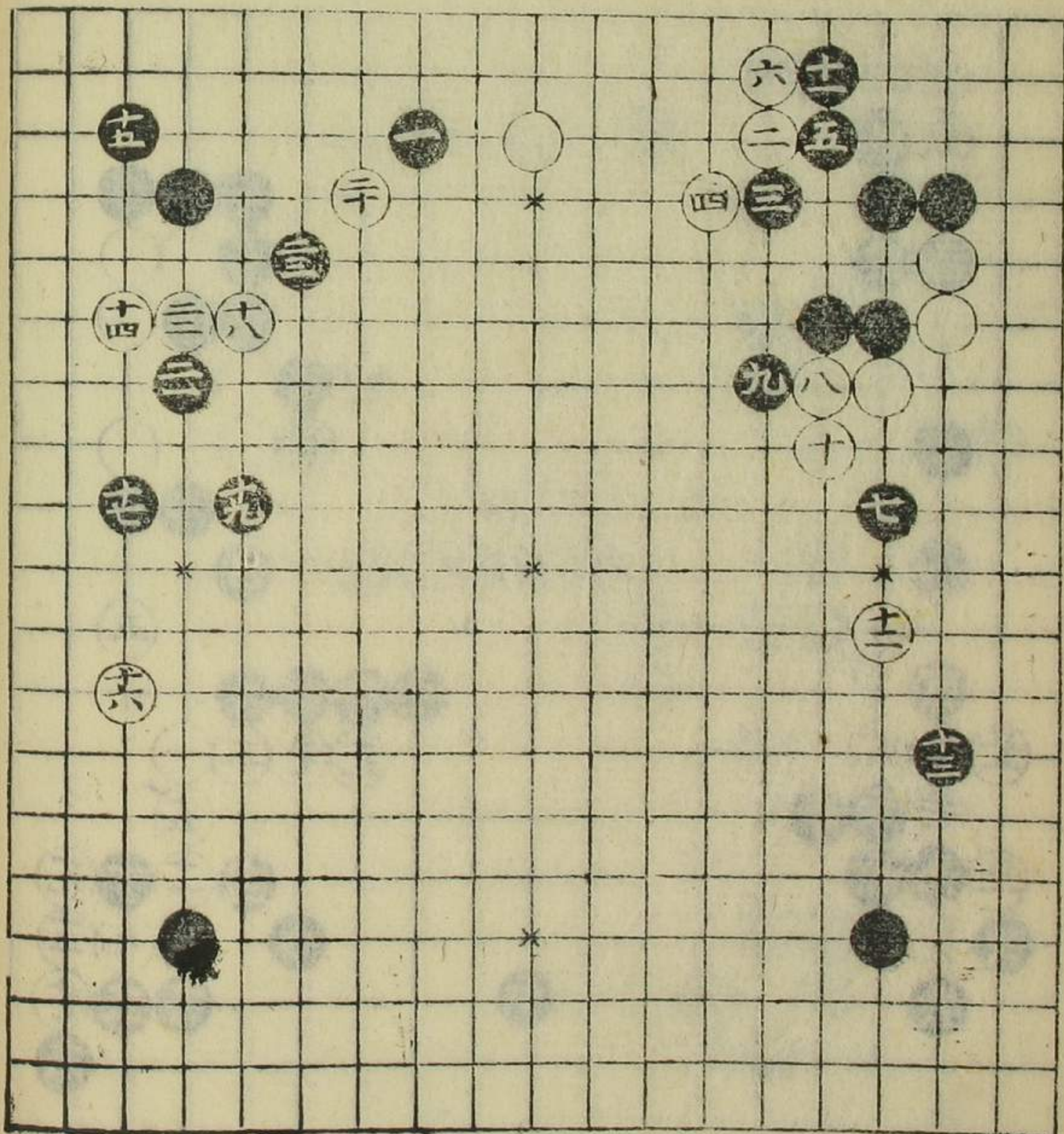


若白七ヶより
 妙
 ぬ毛振初りて毛
 黒堅く大位よあ

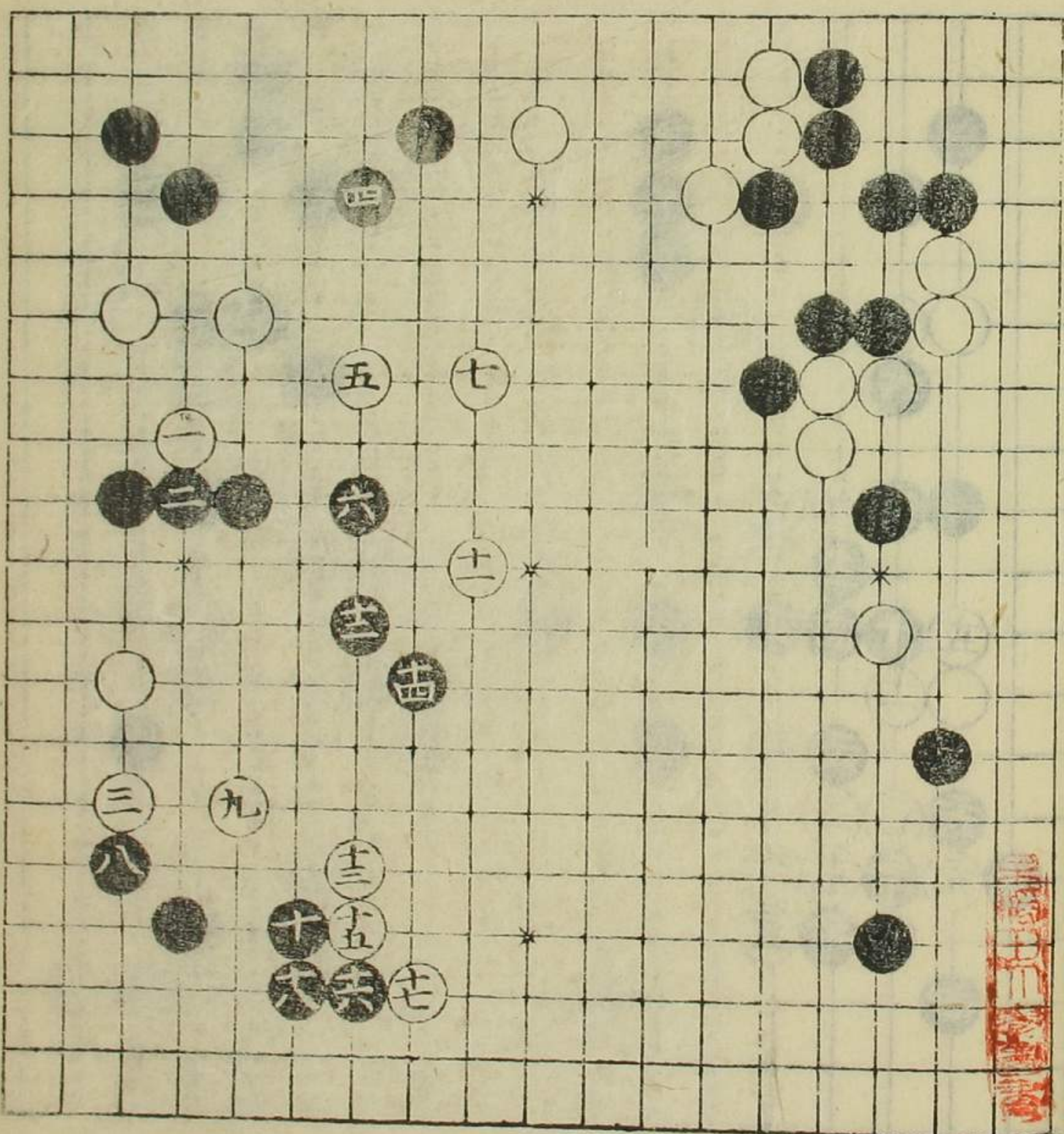


四目置之部

本星黒八けより
 移る
 如試有りて白二十の
 手終るか手終る
 時々二三と分てお若
 るもあつてもあつても
 移り決すれと

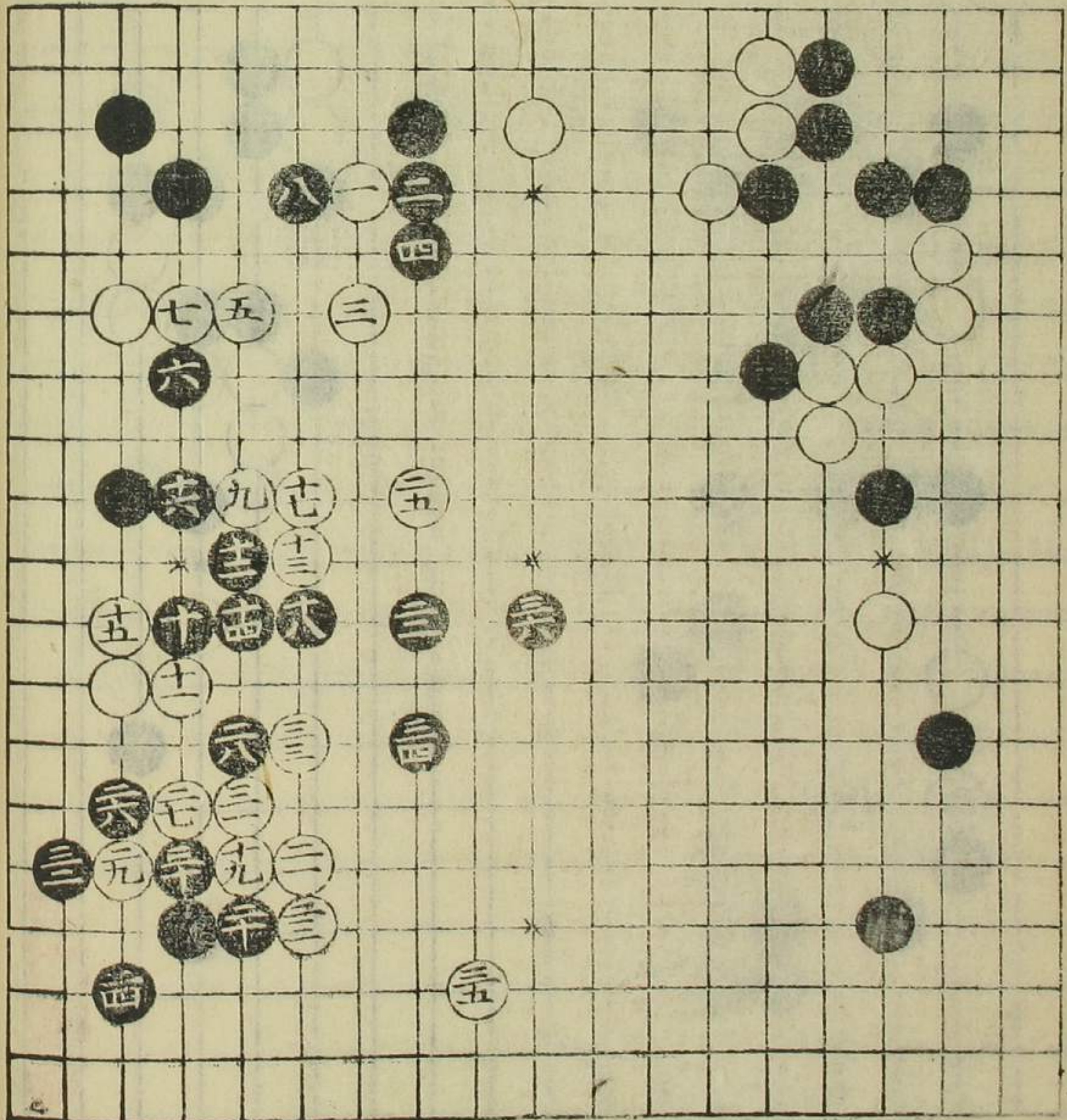


前星白二十けより
 移る
 如此一と移移しても
 四と尖るとはははは
 くと能あり

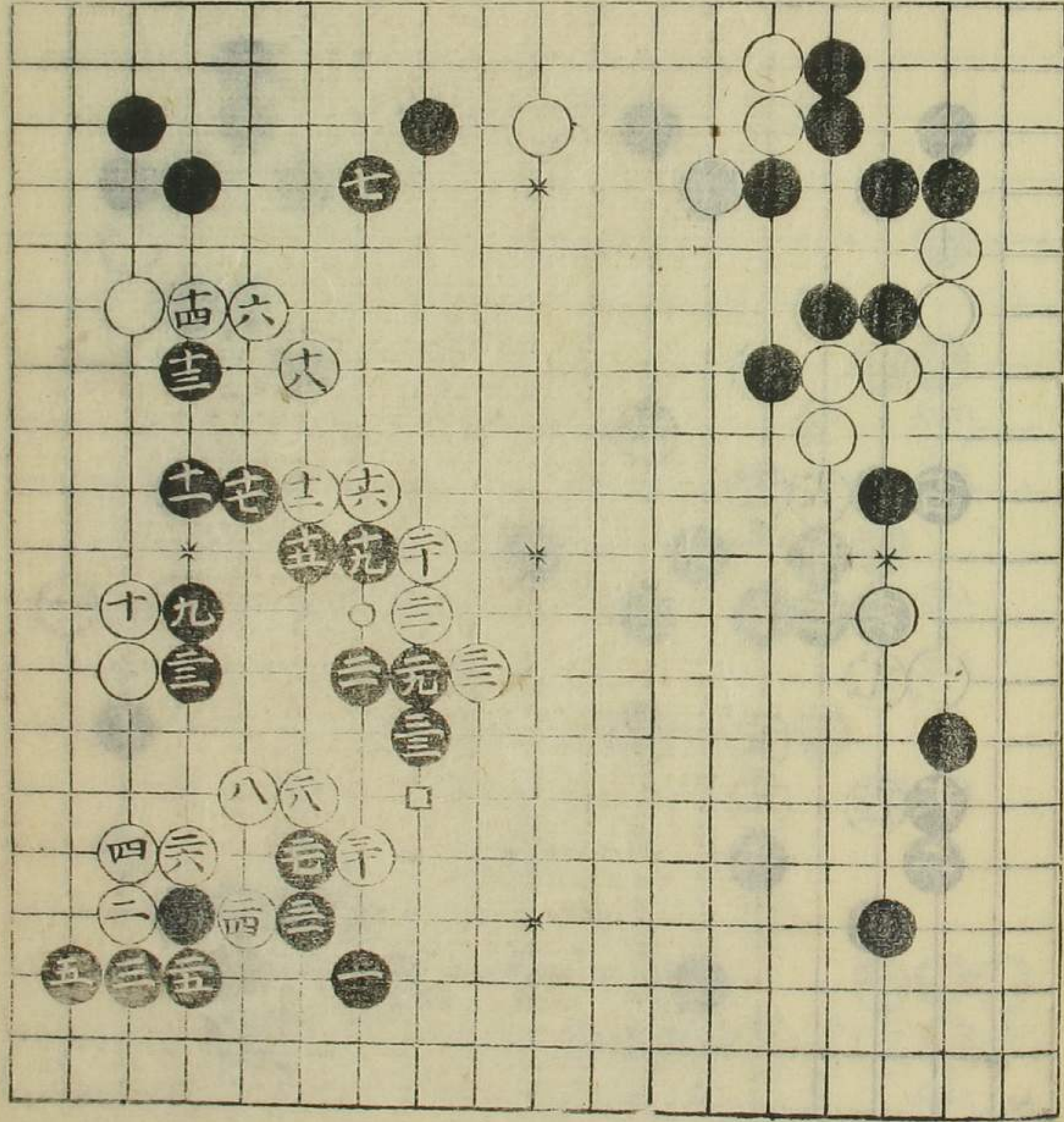


四目置之部

本堂の七番目以卓
 のよりなり
 一と白ぬきあつて二と
 押さず白勝くあり
 黒おとさるゝんぬき
 きる也

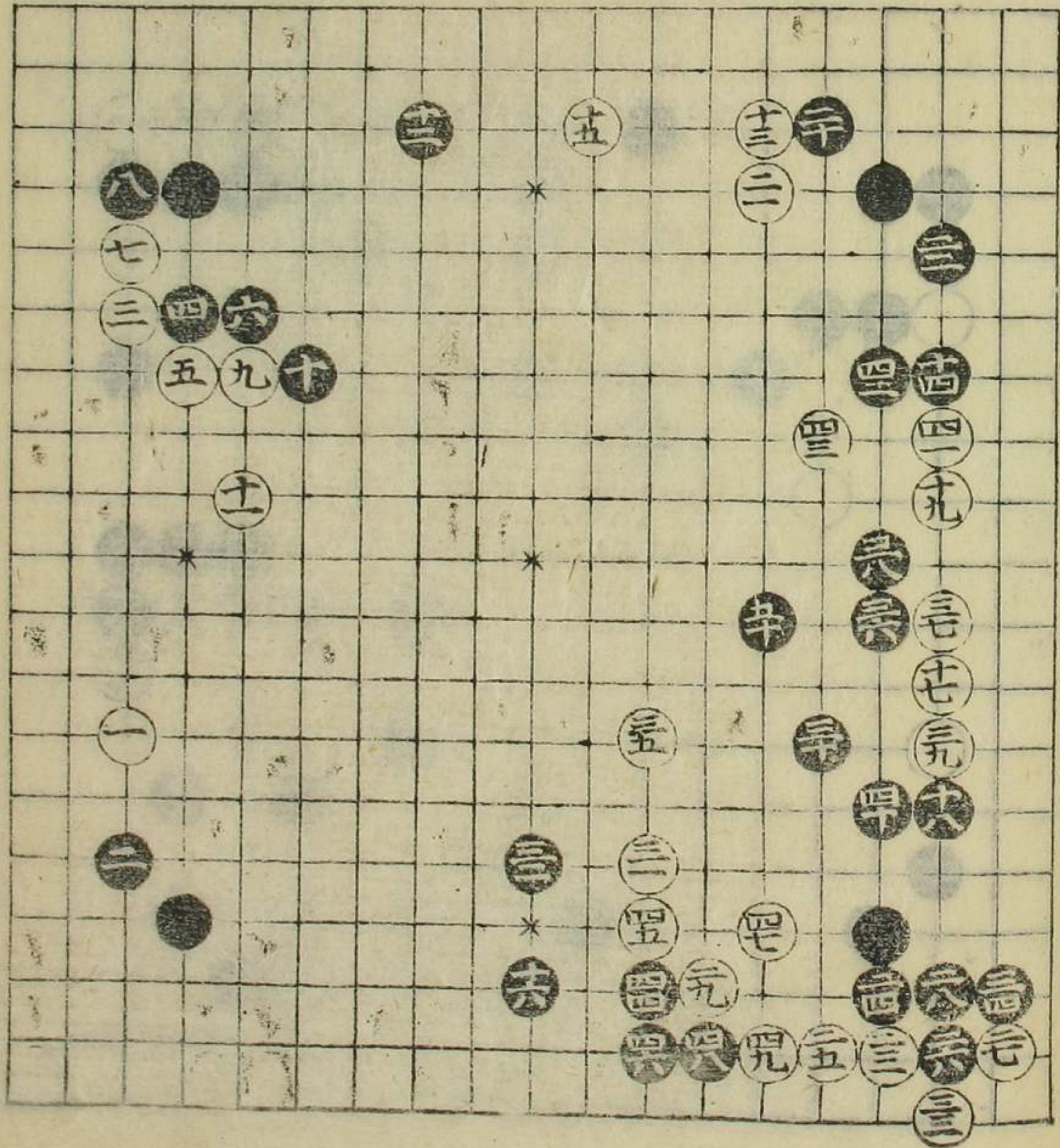


本堂より七番目以黒十
 七のよりなり
 ぬきあつても白はぬ
 ありとも七のより黒三
 三は口一に白はぬ
 不をれども〇下は出て
 切る子有ぬぬきあつて

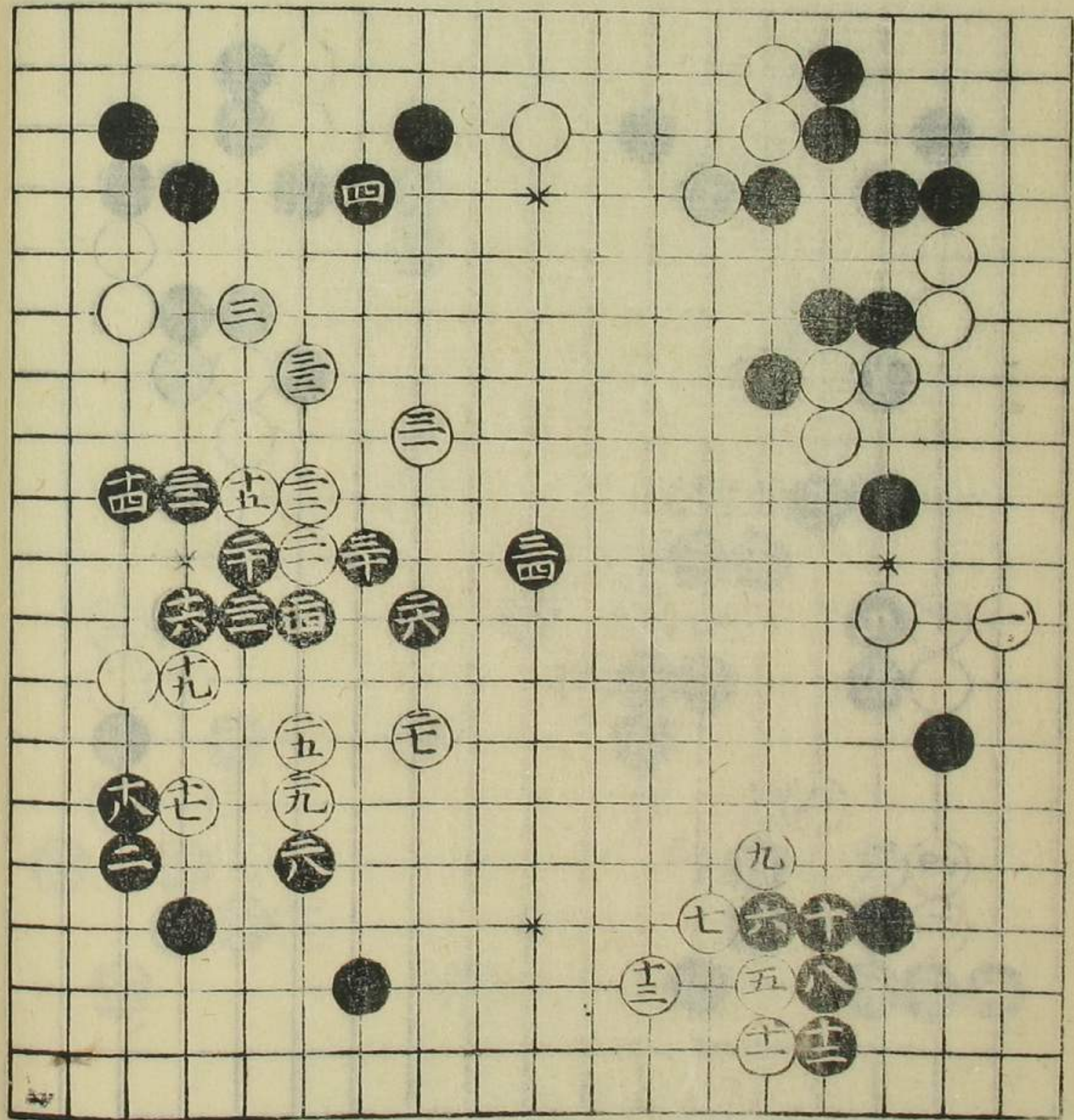


四目置之部

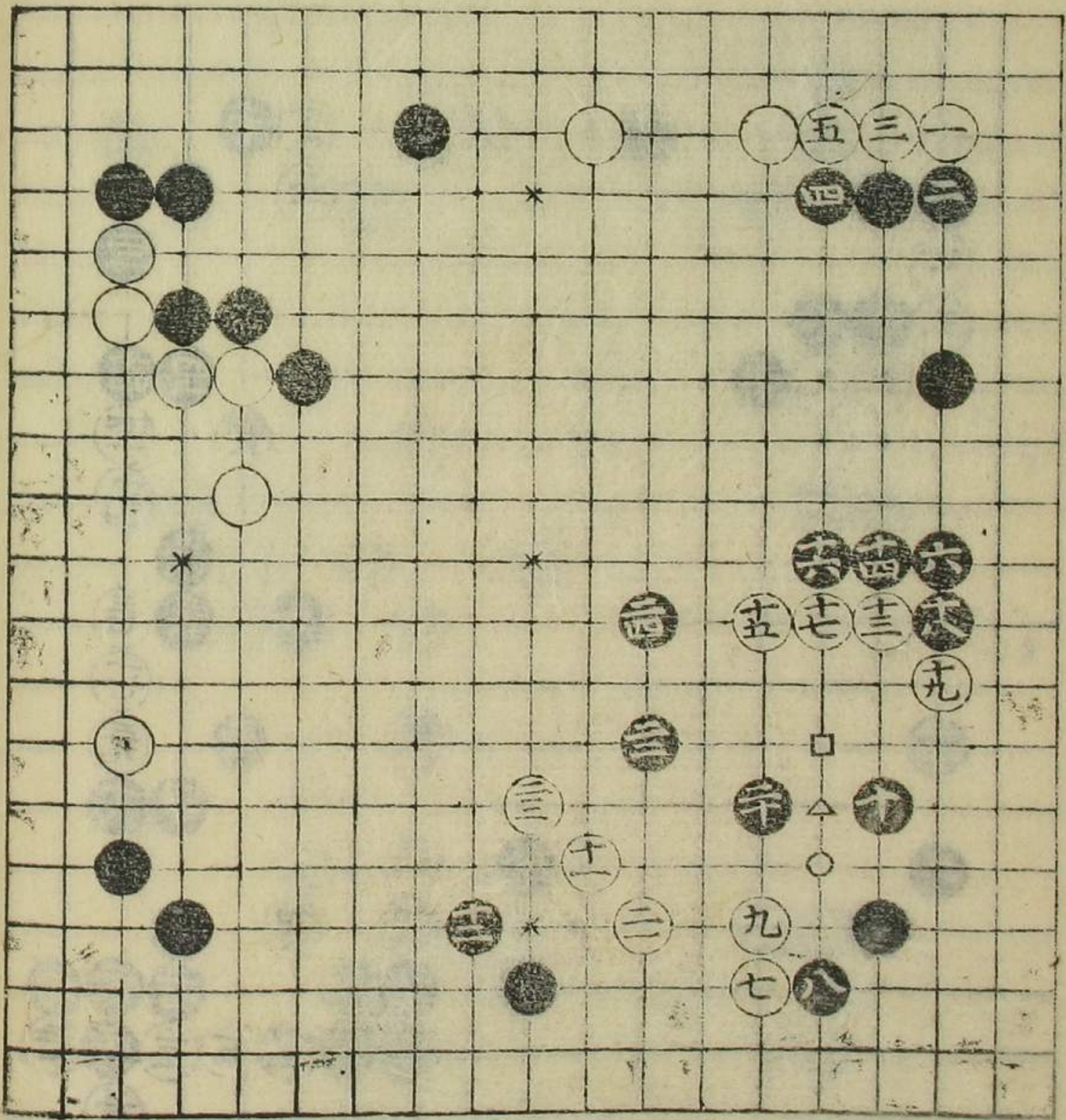
此黒打と見左右白
落しと有黒打才小志
まゝもぬらんゆへ



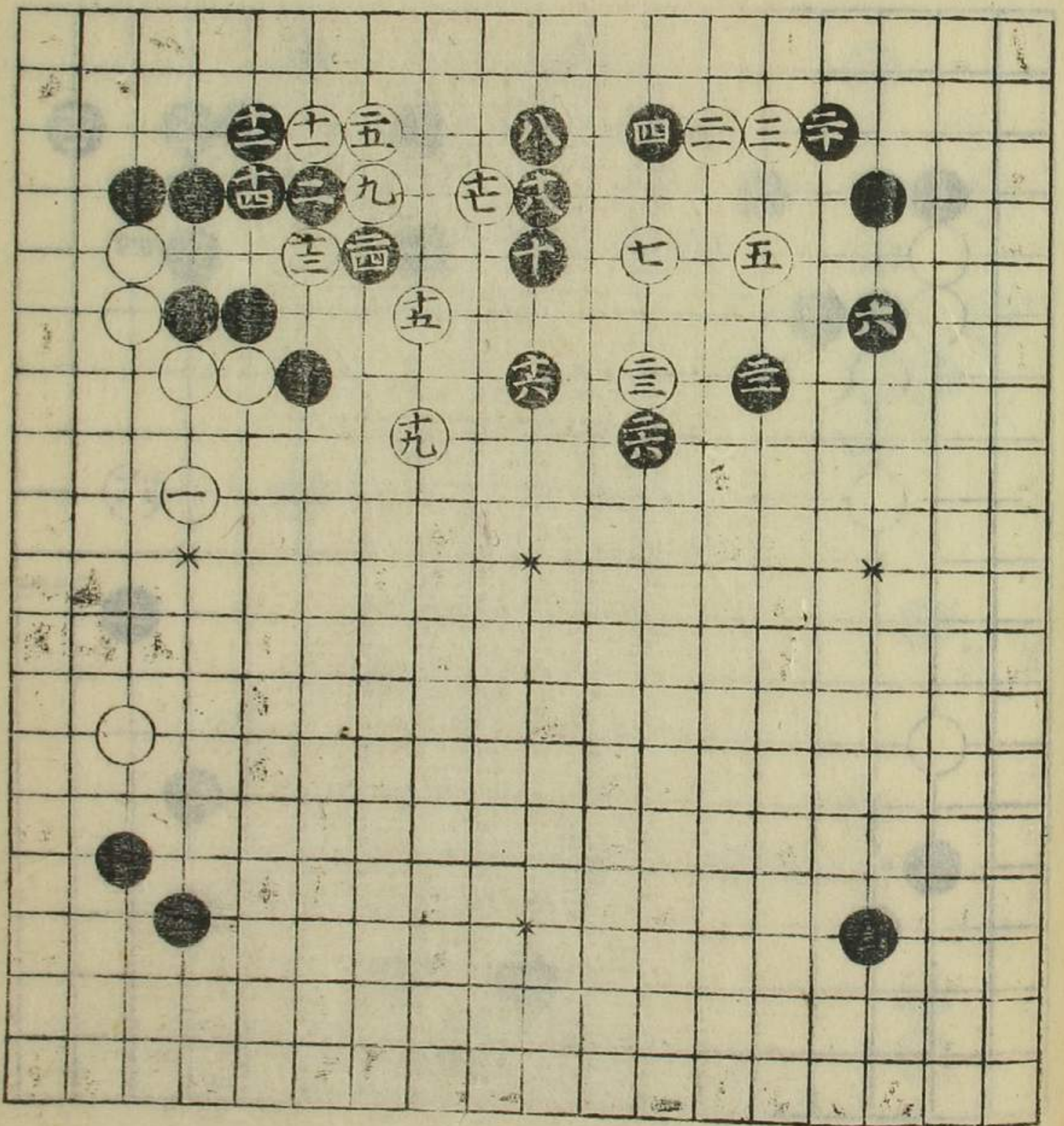
此黒白二れより
勢
種々白勢にてお
筋を知りしむる
んゆへとてんりま
しむる



飛石白十七はより
 勢
 是又左名の白せしや
 勢急めし黒三四は
 口平へ尖ておぼや
 て置る去白の○平
 へのそきおハ△平へ
 つぎおあふり一
 二四とあり

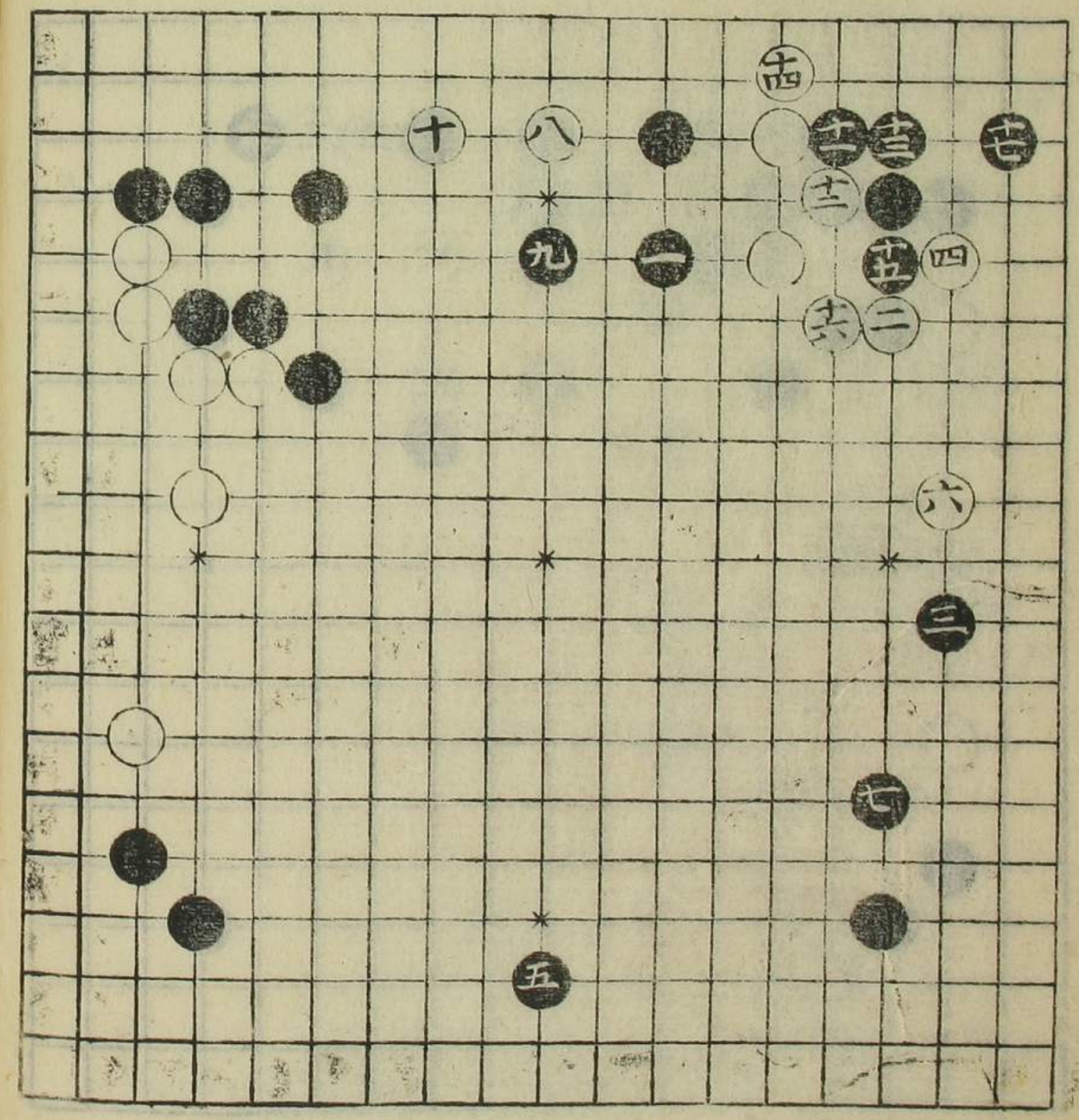


本碁白十一のより
 勢
 此石五白生をうへ
 黒必くしを



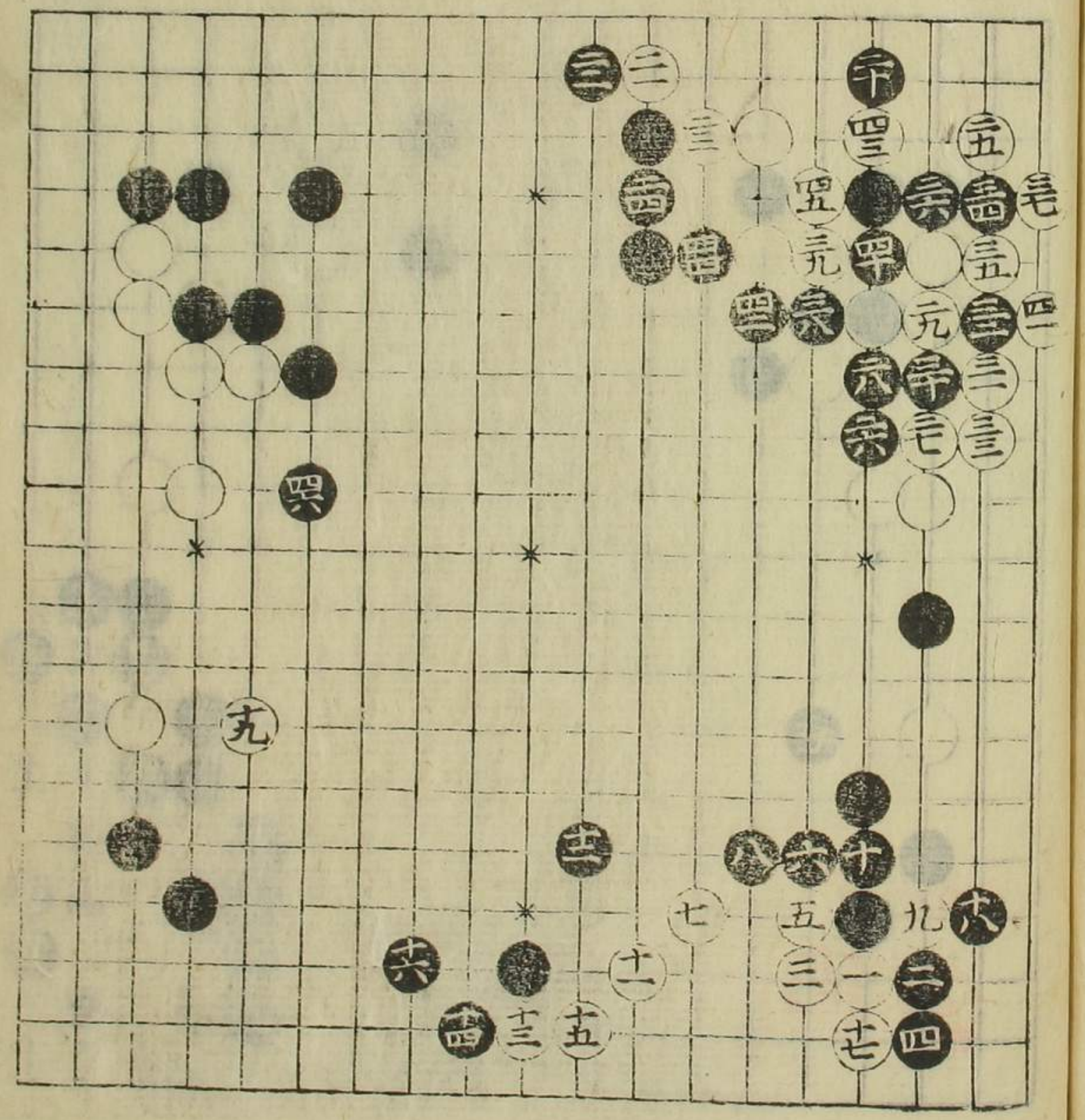
四目置之部

龍星黒六のよき
 形
 此石立路はあつて
 とくめは左位より
 打

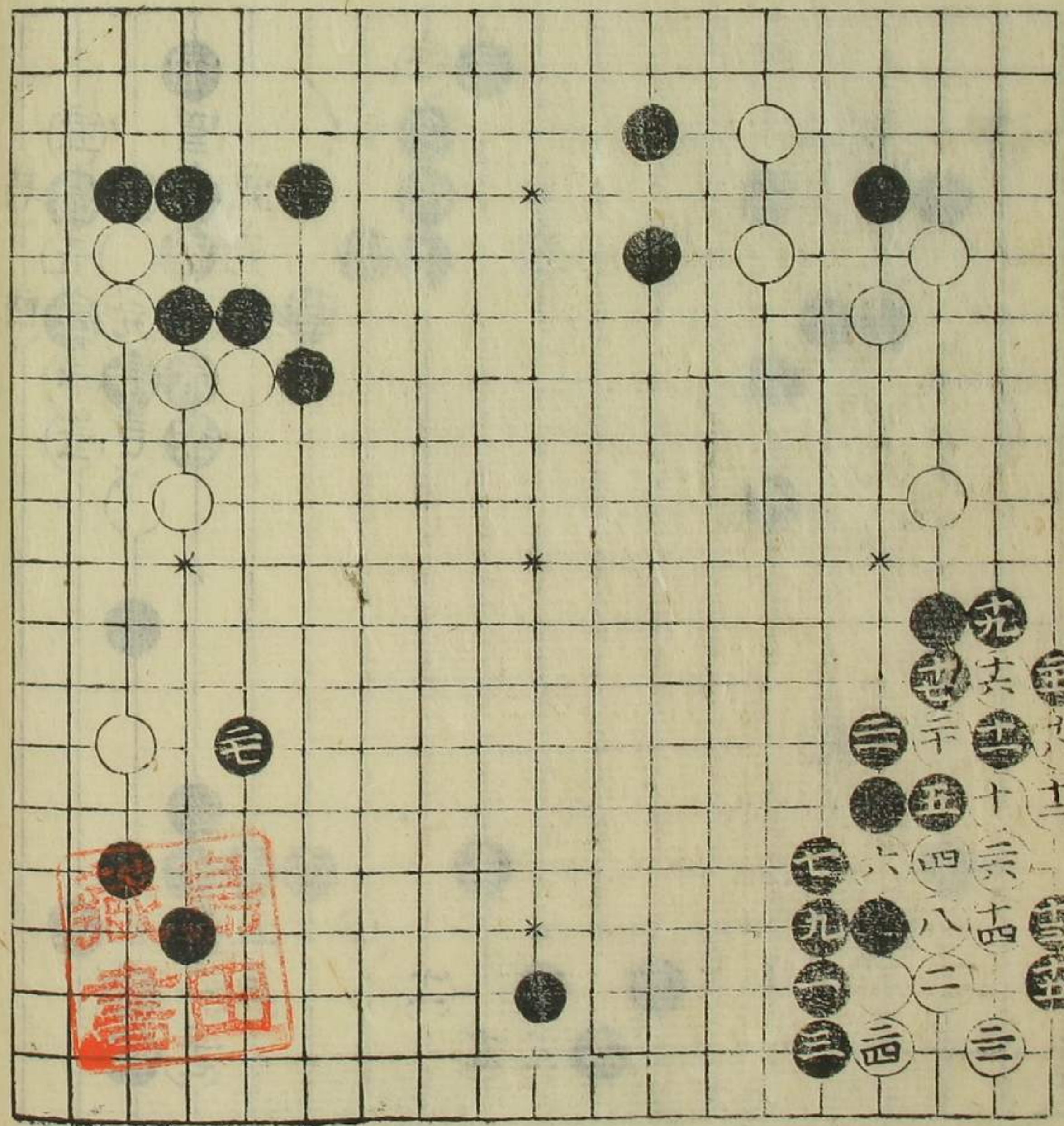


龍星白七のよき
 形
 二六のふ上を打つ
 打趣向は此の如く
 黒も亦う能はれぬ

四目置之部



本墨黒二のちり
 勢
 如形角は白を生し
 て上を打二七と白
 けうきさ取城守絶
 少く白如之と黒位
 大者
 劫



二押

